

**2020年度
海と日本ニュースプロジェクト
実施報告書**

**2021年3月31日
海と日本ニュースプロジェクト実行委員会**

1 事業概要

1_(1)事業サマリー

海と日本プロジェクトを情報ソースとしたニュース編集部を設置。
海と日本プロジェクトの各イベントや事業を独自の切り口で取材。
また、エリア局と連携し全国の活動をWEBニュース用へと再編集を実施。
それらを動画消費ニーズが高い今の時代に合わせて映像とテキスト記事で掲載する。
本ニュースサイトの記事は既存のニュースサイト（Yahoo!ニュース）と連携させ全国の幅広い層へ海に関するニュースを拡散。
海に対する興味喚起を行う。

- ・「ソーシャル・イノベーション・ニュース」への掲載記事数 40件 1,278,458PV
- ・「Yahoo!ニュース」への掲載記事数 43件 67,128PV
- ・合計PV数 1,345,586

(2021年3月31日時点)

1_(2)実施主体

海と日本ニュースプロジェクト実行委員会

1_(3)実施期間

2020年4月～2021年3月

2 ニュースサイト運用

ソーシャル・イノベーション・ニュース <https://social-innovation-news.jp/>



ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

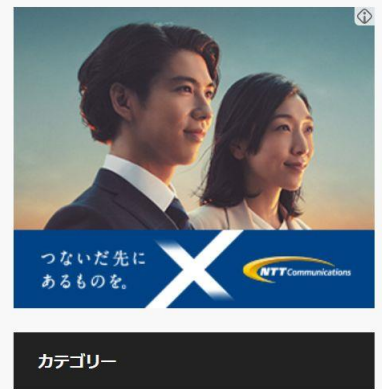
ホーム > 海洋危機特集

海洋危機特集

海洋危機特集

日本は、四方を海に囲まれた国です。私たちの社会や文化は、海に囲まれた環境の中で形づくられてきており、食べ物、名前や地名、祭りなどさまざまなものが内陸、沿岸問わず海と結びついています。

しかし今、気候変動や自然災害、海洋生物資源の乱獲、生態系のバランス崩壊など、海の危機は私たちの気づかないところで広がっています。海に囲まれた日本に暮らす私たち一人ひとり



日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」である
ソーシャル・イノベーション・ニュースの中に、**海洋危機特集コーナー**を設けた。

海と日本プロジェクトの一環で制作された地方テレビ局のニュース動画を、
本サイト用に**WEBに最適化**した形に再編集して新たにニュース記事を作成し
掲載するのに加えて、コロナ禍や専門性の高いテーマにも対応できるように
強化した独自動画取材チームを設置し、日本財団主催のイベントや
会見の様態を速報性を持つ形で伝えたり、海と日本プロジェクトの自主事業として
行われたイベントの様態を伝えることで、**海と日本プロジェクトについて
包括的に発信する媒体**となっている。

さらに、今年度からは**海の安全に関する取組をシリーズ化**企画で紹介するなど、
海と日本プロジェクトの活動に合わせた独自取材を行い、発信している。

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
1	2020.04.04	全国	安全・そなえ	新型コロナウイルス感染症対策で計1万床目指す～日本財団が感染者のために品川区とつくば市の所有地を提供～
2	2020.05.14	全国	生態系	中高生がオンラインプレゼン～マリンチャレンジプログラム2019全国大会～
3	2020.05.27	全国	安全・そなえ	コロナ対策で50億円の支援～日本財団が“第2波”と“複合災害”に備えて救命救急医療を支援～
4	2020.06.16	全国	テクノロジー	無人運航船で世界初の実証実験～年間1兆円の経済効果が期待できる新プロジェクトを日本財団が支援～
5	2020.07.03	全国	安全・そなえ	コロナ禍こそ水辺のそなえを～第1回：ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方～
6	2020.08.04	全国	海ごみ	異業種が連携して海ごみ対策～包装材メーカーから文房具の企業まで協働する「ALLIANCE FOR THE BLUE」～
7	2020.08.17	全国	コスプレ	コスプレ×海ごみ アワード決定～28か国のコスプレイヤーが海洋ごみ対策～
8	2020.08.21	全国	安全・そなえ	海の安全を守るボツと海の家～片瀬東浜海岸に建設された“釘のない海の家”～
9	2020.09.12	全国	コスプレ	小泉環境相もコスプレイヤーとごみ拾い～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク」開始～
10	2020.09.17	全国	海ごみ	Jチームが海ごみで最優秀賞～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」～
11	2020.09.21	全国	海の体験機会づくり	旬のエビで巨匠がロスなし料理～海洋ごみ問題とフードロスを考える「エビフェス」～
12	2020.10.07	全国	生態系	育てたヒラメを最後どうする？～小学校で海の魚を養殖する「陸養プロジェクト」～
13	2020.10.11	全国	海の体験機会づくり	厳選グルメから食と海を考える～29県の絶品海グルメを販売「全国海の贈り物フェア2020」～
14	2020.10.13	全国	海の体験機会づくり	30年後は海のご馳走が無い？～サンマにあんこうなどの魚を食べて海を考える「海のごちそうウィーク」～
15	2020.10.30	全国	海の体験機会づくり	Go To 灯台！～全国各地で灯台の一般公開などを行う「海と灯台ウィーク」～
16	2020.11.12	全国	生態系	全国を巡る2人の海の繋ぎ手～東西から日本各地の海の魅力や課題を発信していく熱源キャラバン～
17	2020.11.19	全国	安全・そなえ	コロナ禍と全国の水辺の事故～減少した救助出動件数の裏には海の安全を守る人達の活動が！？～
18	2020.12.02	全国	海ごみ	コロナ禍でも高校生が熱闘！～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定！スポGOMI甲子園～
19	2020.12.02	全国	海ごみ	全国の熱源を2か月巡りゴール～2021年の熱源サミットに向け新たな展開「熱源プロジェクト」～
20	2020.12.25	全国	海の体験機会づくり	水族館からのオンライン授業～オンライン謎解き「海なぞ水族館」に先駆けて行われた海洋問題の授業～

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
21	2020.12.28	全国	海の体験 機会づくり	院内学級の生徒が海中体験！～Virtual Ocean Projectが実施したオンライン授業「水中ドローン×VR」～
22	2021.01.21	全国	安全・そ なえ	介護スタッフに無料PCR検査～約10万人が毎週1回を目安に日本財団が実施へ～
23	2021.02.06	長崎県	海の体験 機会づくり	海のクイズ王で学校のヒーローに～クイズ王・古川プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」～
24	2021.02.06	石川県	海ごみ	大麦ストロー製品化から1年～アサヒビールと協力、高校生が賛同と広がるプラごみ削減～
25	2021.02.06	三重県	海の体験 機会づくり	学生が海の生き物ロボで授業～地元・三重県のスズキヤイルカをリアルに再現したロボットで環境教育活動～
26	2021.02.06	兵庫県	海の体験 機会づくり	日本最古級の灯台に脚光！～「恋する灯台」認定で盛り上がる淡路島の江崎灯台～
27	2021.02.06	福岡県	伝統文化	新世代・海女漁師の取り組み～新たなアイデアで海女発祥の地・鐘崎を盛り上げる若き海女漁師～
28	2021.02.06	沖縄県	海ごみ	ごみでSNS映え&マッチング～沖縄県で若者が進める新しいごみ拾いの仕組み～
29	2021.02.16	青森県	生態系	陸奥湾のアマモを守る経営者～日本一減少しているアマモ場の再生に奮闘する志田崇～
30	2021.02.16	山形県	海の体験 機会づくり	バリアフリーの海への第一歩～山形県の「マリンパークねずがせき」に設置された常設スロープ～
31	2021.02.16	滋賀県	海の体験 機会づくり	湖上スポーツの拠点を作りたい～パラローイング団体の代表が琵琶湖で大会を初開催～
32	2021.03.03	新潟県	生態系	若手漁師の新たな活動は先生～海と日本プロジェクトをキッカケに芽生えた「海の魅力を伝えたい」～
33	2021.03.03	長野県	海ごみ	学生が「清走中」で海ごみ対策～海なし県・長野の高校生が取り組む海洋ごみ問題～
34	2021.03.18	神奈川県	海の体験 機会づくり	海への想いが繋げたビールとピザ～「豊かな海を残したい」との想いが合致した神奈川県の2つの飲食店～
35	2021.03.18	鳥取県	海の体験 機会づくり	鳥取発！広がる「すなばスポーツ」～すなばスポーツで鳥取県を日本一ワクワクする「すなば県」に～
36	2021.03.18	香川県	海ごみ	児童が選んだ学習テーマは海ごみ～ビーチクリーンにも参加して学んだ香川県の高松小学校～
37	2021.03.18	熊本県	生態系	18年以上続く芦北高校の挑戦～豊かな海にするため熊本県・芦北湾のアマモ場を再生へ～
38	2021.03.29	石川県	生態系	石川県で広がる「海の学び」～海を未来へと引き継ぐ者たち①「海と日本プロジェクトinいしかわ」と「能登里海教育研究所の浦田慎」～
39	2021.03.29	北海道	生態系	子ども達に北海道の海の魅力を～海を未来へと引き継ぐ者たち②「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」と「オホーツクタワー・村井克詞」～
40	2021.03.29	兵庫県	生態系	兵庫 キレイで豊かな海づくりを～海を未来へと引き継ぐ者たち③「海と日本プロジェクトinひょうご」と「うみぞら映画祭の大継康高」～

No.	1	エリア	全国	投稿日	2020.04.04
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1092		



新型コロナウイルス感染症対策で計1万床目指す～日本財団が感染者のために品川区とつくば市の所有地を提供～

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月3日、日本財団が独自の施策を発表した。日本財団によると、東京都品川区にある関連団体が運営する「船の科学館」の駐車場、隣接する「パラアリーナ」の体育館などを提供。そして、4月末には軽症者やその家族が滞在できるように約1,200床を確保する予定。医師や看護師の滞り場所の設置も想定しているという。また、7月末までには、茨城県つくば市にも約9,000床分の受け入れ施設を提供する予定。

さらに、これら計1万床の施設において、利用する人の食事・サービスから医師と看護師の給料に至るまで、あらゆる必要経費は日本財団が全額負担する。

具体的な運営方法などについては、これから厚生労働省や東京都と協議していくという。笹川会長は「この施設が使われないで終わることが私たちの最大の願いだが、備えをつくっておくことが重要だと思っている。一日も早くこのコロナとの戦いが終了するように、これから活動をしていきたい」と話した。

No.	2	エリア	全国	投稿日	2020.05.14
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1098		



中高生がオンラインプレゼン～マリンチャレンジプログラム2019全国大会～

「マリンチャレンジプログラム2019全国大会～海と日本PROJECT～」が、2020年4月19日に東京で行われました。マリンチャレンジプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバネスが2017年から毎年実施。海洋分野での課題を見つけ、人と海との未来を創り出す仲間づくりのため、海・水産分野・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

2019年度は全国から計40チームが採択され、この日は、地方大会を勝ち抜いた13チームによる全国大会が開催されました。学生たちは1年間の研究の集大成を、マリンチャレンジプログラム史上初のオンライン形式でプレゼンしました。審査員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行さんは「今回、初のオンラインでのマリンチャレンジプログラムだったが、新型コロナウイルスの状況から学生の健康面・安全面を第一と考えてオンライン形式とした。ただ、オンライン発表になったことで、参加者はそれぞれ慣れ親しんだ場所からのプレゼンテーションができたということで、緊張もなく普段の力を発揮できたと思う」と言います。

そんな今大会で表彰されたのは5つのチームで、その1つが、「日本財団賞」に選ばれた多摩科学技術高等学校の佐藤優衣さんです。佐藤さんは、大好きな「珪藻」をもっと知ってもらいたいと思い、研究を実施しました。その研究は、細胞の周りにガラスの殻をもつ藻類「珪藻」と、緑色の藻類で光合成の時に炭化水素のオイルをつくる「緑藻」の2つの細胞を融合させ、ガソリンなどに代用できる炭化水素のオイルを多く生成する新細胞をつくるというものです。佐藤さんは「珪藻を見ることも知ることも大好きで、この実験をするのもすごく楽しかった」と発表したように、その珪藻への愛が受賞へと繋がりました。「情熱だけは誰にも負けないと思っていた。将来の夢も研究職なので、たぶん一生珪藻を追い続けるのかなと思っていた。皆さんに珪藻を知ってもらえるようにこれからも頑張る」と佐藤さんは語っていました。

そして、最優秀賞に選ばれたのが、大阪明星学園の代表研究者・中崎宏哉さんです。その研究は、病気になるさかなを減らし、養殖や飼育に役立てるため、さかなの病原菌を不活性化させる物質を出す「さかなの腸内細菌」を発見するというものです。そこで、中崎さんが行ったのが、オリジナルの方法「バクテリアバトル」です。なんと採取した腸内細菌を戦わせるという今までにない方法で研究を行ったのです。審査員長の株式会社リバネス 教育開発事業部の部長・西山哲史さんが「中崎さんはバトルという全く新しい研究手法を生み出してくれた。審査員全員が面白いと口を揃えて言っていた」と表彰の理由を語ったように、まるでゲームのような独自の新手法が、最優秀賞の決め手になったそうです。中崎さんは「微生物が好きなので、今後も微生物の研究を行っていききたい。そして、将来的には、微生物の研究者とか共同研究者になりたい」と今後の展望を話していました。

そんなマリンチャレンジプログラムについて海野さんは「今、人類の喫緊の課題として全世界で取り組んでいるのが、気候変動の問題。その舞台の中心にいるのが、海の研究者だと思う。海に関わってくれる若い人がドンドン増えることによって、厚みが増して課題に取り組んでいけると思うので、研究者の卵とも言える中高生には、このマリンチャレンジプログラムに参加してもらい、研究者となるベースをつくってもらえたらありがたい」と意義を語っています。

マリンチャレンジプログラムは2020年度も始動していて、2021年の3月に全国大会が行われる予定です。

No.	3	エリア	全国	投稿日	2020.05.27
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1104		



コロナ対策で50億円の支援～日本財団が “第2波”と“複合災害”に備えて救命救急医療を支援～

日本財団は、新型コロナウイルス対策として救命救急医療の支援を行うと、2020年5月26日に発表した。支援対象は全国に139ある「救急指導医指定施設」。その目的について日本財団の常務理事・海野光行さんは「今そこにある危機への対応として“新型コロナ対策への支援”を行い、次に起こる危機への備えとして“第2波、第3波の新型コロナへの備え”と“甚大な複合災害への備え”」だと話す。

5月25日に緊急事態宣言は解除されたが、いまだ新型コロナウイルス問題は収束していない。そんな中、今、救命救急医療が危機的な状態だという。その要因のひとつが、感染症対策における器材などの不足。実際に、淀川キリスト教病院・救急科・副部長の夏川知輝医師は「とにかく僕ら自身を守るものさえ不足している。正直怖い」と語っている。また、医師や看護師は新型コロナウイルスの対応により、肉体的にも精神的にも疲弊しているという。その状況下で救急医療が新型コロナ対応に追われると、他の重篤患者を診られなくなるなど危機的な状況に陥る。そして、新型コロナが収束していない状況で、さらに自然災害が発生した場合、甚大な被害をもたらす恐れがある。実際に、コロナ禍で南海トラフ大地震が発生した場合、避難所における感染者数は、約1カ月で最大60万人にもなるという推計もある（出典：株式会社Spectee 2020年5月）。

そこで、日本財団は、生命の危機にある状態の患者を最初に診断する救急医療を支援するのだという。支援内容は、2020年度は防護着やドクターカーなどの購入費といった資金支援を実施。まず6月中に先行して4つの救急指導医指定施設へ開始し、その後、7月から他の施設へも資金支援を始める予定だという（6月中に施設からの申請を受付）。器材などの提供ではなく、資金支援の理由について海野さんは「支援はニーズに基づき、柔軟かつスピード感をもって行う。ものだと時間がかかってしまう」と話している。そして、2021年度からは救急医療に従事する人材の育成などを実施する。支援の総規模は3年で50億円以上と、日本財団による新型コロナ対策支援の中でも最も大きいものになるという。海野さんは「救急医療が新型コロナの影響で機能不全を起こしているが、その原因はリソースの不足があったと思う。このリソースの不足を日本財団が注入して改善し、第二波や第三波、そして複合災害に備える。そうすることで、救急医療を後押ししたい」と話す。また、日本財団の会長・笹川陽平さんは「救急医療の医師や看護師には、これから環境が良くなる可能性があると思って欲しい」と支援への思いを語っている。

No.	4	エリア	全国	投稿日	2020.06.16
カテゴリー	テクノロジー	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1108		



無人運航船で世界初の実証実験～年間1兆円の経済効果が期待できる新プロジェクトを日本財団が支援～

日本財団は無人運航船の実証実験を始めると、2020年6月12日に発表した。実証実験を行うのは、5つのコンソーシアム（複数の民間企業体）で、海運や造船、ITなど40以上の企業が協力し合う一大プロジェクトとして、2021年に実証実験を行う予定。

そもそも無人運航船とは、必要に応じてオペレーターが遠隔操作なども行うが、船内のほぼ全ての作業をAIやIoTが担当して無人で運航する船のこと。今、日本では、内航船において、船員の高齢化や人手不足が問題となっているという。実際に50歳以上の船員は5割を超えている。そのため、無人運航船は、人員不足といった問題の大きな解決策の1つになりうるという。さらに、日本財団は、2040年に50%の船が無人運航船になった場合、年間1兆円ほどの経済効果が期待できるとの試算も発表している。しかし、開発に莫大な資金が必要などの理由から、日本では無人運航船の開発はほとんど行われていなかった。そこで、無人運航船を実現させるため、実証実験を行うというのだ。

そして、日本財団によると、実証実験では世界初の試みが行われるという。中でも、多数の船が行き交う「ふくそう海域」での実証実験に注目。日本財団の常務理事・海野光行さんは「通常の船では、船員が状況を目で認知し、そして判断をして操船をする。無人運航船では、それに代わるものをAIにさせる。ふくそう海域では、AIが頻繁に判断をする状況になるため、そこを各コンソーシアムがどうクリアしていくのかというのが見どころになるだろう」と語る。その他にも、「大型船の使用」や「長距離の航行」、そして、「自動車の自動運転システムを改造した水陸両用の無人運転技術の開発」などの実証実験も世界初の試みだという。

さらに、日本財団は、実証実験だけで終わらせず、2025年までの実用化、そして、2040年を目処に運航する船の半数を無人運航にすることを目標にしている。そこで、無人運航船に関わる一連の取り組みを「MEGURI2040」というプロジェクトとし、今後も支援していくという。日本財団の会長・笹川陽平さんは「無人運航船の実証実験によって、世界で最初に日本が先べんをつける。造船・海運のイノベーションをぜひ日本発でやって欲しい」と語っている。

No.	5	エリア	全国	投稿日	2020.07.03
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1112		



コロナ禍こそ水辺のそなえを～第1回：ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方～

2020の夏は、新型コロナウイルスの影響で、開設されない海水浴場やライフセーバーが常駐しない海があります。そのため、水辺の事故が増える恐れがあります。そこで、水辺の事故を防ぐために必要なことを専門家に聞いていきます。第1回目は、公益財団法人 日本ライフセービング協会の副理事長／ライフセービング教育本部長・松本貴行さんです。

今、松本さんが力を入れていることの1つが、子ども達向けにオンラインで実施している水辺の安全教室です。この教室は、日本ライフセービング協会が作成したICT教材「Swim&Survive」を活用した講座で、松本さんが講師を務めています。2020年6月28日には2回目として「e-Lifesaving 水辺の安全オンライン教室」が開催されました。この教室を開催した理由の1つに、2020年の夏、危惧していることがあるからで、その中で、「水泳の授業が行われていない学校もあることから、水にたむわるとか水に感覚的に慣れるといった泳力的なものが確保されていない」と松本さんは言います。実際に、オンライン教室に参加した22人の子ども達全員が、水泳の授業がないと答えていました。「水泳の授業を通じて、水辺の安全に関する知識を学んでいくというのは、学習指導要領の中にも入っている。2020年の夏から小学校5・6年生は、『安全確保につながる運動』が実施されるはずだったが、新型コロナウイルスの影響で、なかなかできていない」と松本さんは話します。学習指導要領に導入された「安全確保につながる運動」とは、背浮きなどによって長く浮くことができるようにすることで、泳げることと同様に「浮いていること」も生命の安全確保には有効であること、泳力の有無にかかわらず水の特性を楽しむ機会を保證することなどを意図したもの（出典：文部科学省）。水泳の授業がないことで、水辺の安全の知識を学ぶ機会が減っているというのです。また、松本さんは「水泳の授業がなくなっている状況下、そして、長い自粛期間などで色んなストレスを抱えていた中で、その発散として海や川に行った時、色々なリスクが生じてくるのではないかと思う」とも話していて、コロナ禍である2020年の夏は、水辺の事故が多くなるかもしれないと危惧しているのです。そこで、水辺のリスクと事故を回避するための方法を教えるために、オンライン教室を開催しているのです。

オンライン教室では、事故を回避するために様々なことを子ども達にレクチャーしています。その中の1つが、溺れた原因として多い「風」について。特に注意が必要なのが、陸から海へと吹く「陸風」だと言います。「陸風になると、浮き輪やビーチマットなどの浮き具で浮かんでいる人達が一緒に沖に流される」と松本さんは警鐘を鳴らしています。そんな陸風への対処法は、たとえ沖に流されても、浮いていることが大事のため、「浮き具を離さないことが重要」だそう。その反対に、もし浮き具だけが流された場合は、「浮き具を追ってはいけません」と言います。これは、浮き具が流されるスピードには追いつけない上に、浮き具を追いかけていくということは、沖に向かって泳いでいくことになるためだそう。そんな海の風について松本さんは「海では風がどっちから吹いているかというのを、常に感じて欲しい」と子ども達に伝えていました。

その他にも、「大きな波が来たときには、“潜る”のが最も波の力を受けない安全な回避方法」など、様々な状況下での知識を教えています。

また、海について事前に調べることも、2020年の夏は重要だと言います。日本ライフセービング協会では、開設されている海水浴場、ライフセーバーがいる海水浴場の情報を近々HPにて公表する予定です。他にも、「海水浴場の開設期間に関するアナウンスは、都道府県のHPなどであると思う」と松本さんは言います。

例年とは違う水辺の安全について、松本さんは「海というのは楽しい場所であり、心身のリフレッシュなどに無くてはならないもの。ただ危ないということだけが先行せず、日本は島国なので海の素晴らしさをしっかりと伝えていき、その中に安全を込められるような発信をしていきたいと思っています」と語っています。

水辺の安全教室は、2020年7月以降も行われる予定です。

No.	6	エリア	全国	投稿日	2020.08.04
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1116		



異業種が連携して海ごみ対策～包装材メーカーから文房具の企業まで協働する「ALLIANCE FOR THE BLUE」～

レジ袋の有料化が始まり、海洋ごみへの関心が高まる中、日本財団が「アライアンス・フォー・ザ・ブルー（ALLIANCE FOR THE BLUE）」の設立を、2020年7月29日に発表した。この組織は、様々な業種や業界が連携し、新たな海洋ごみの発生防止やすでに発生した海洋ごみの削減を目的としたもの。

海洋ごみは、ポイ捨てだけが原因ではなく、開発の段階では包材・印刷などの企業、製造の段階では食品企業などのように、発生するまでに多くの企業が関わっている。そのため、ひとつの企業や業種の対策では海洋ごみ問題は解決できないという。また、日本生活協同組合連合会（コープ）と日本財団の共同調査によると、8割を超える人が「日用品などを購入する際、プラスチックによる包装が過剰、もしくは不要だと感じたことがある」と回答するなど、海への配慮をした商品や仕組みが企業側から提供されていないと消費者は感じているという。さらに、「環境負荷を減らすために、5～10円価格があがったとしても、リサイクル樹脂のペットボトル容器にして欲しい」と半数以上が回答するなど、多くの人が「容器等の環境配慮が増すのであれば価格に転嫁してもよい」とも感じているとわかった。そこで、様々な業種や業界が連携し、海洋ごみ問題に対応するためのプラットフォーム「アライアンス・フォー・ザ・ブルー」を設立したのだ。アライアンス・コーディネーターの堀口瑞穂さんは「1社1社ではなく、企業同士でやってみたいことを相談・提案し合いながら、どんどんプロジェクトとして回していきたい」と話している。

そんなこの組織には、文房具のコクヨ株式会社や包装材メーカーの大日本印刷株式会社など、現在14の企業が加盟している。そして、設立発表イベントでは、各企業が実施している海洋ごみ対策についても説明。その中の1つが、漁網をリサイクルしている「リファインバース株式会社」。日本国内で年間1万トンほど使用され、捨てられているという漁網は、漂着するプラスチックごみの中で最も割合が高い。そこで、リファインバースでは、ナイロン製の廃漁網を回収してリサイクルし、繊維などにして販売している。しかし、リファインバース株式会社の常務取締役・加志村竜彦さんは「製品はつくれるが、エンドユーザーに届くような商品開発ができない」という問題を抱えている」と話す。そこで、アライアンス・フォー・ザ・ブルーにて、他の企業と連携し、さらなる海洋ごみ対策を進めていきたいという。

そんなアライアンス・フォー・ザ・ブルーでは、今後、加盟企業と連携しながら「漁網利用の実態調査と海ゴミ化の抑制」、「海ゴミが発生しやすい場所での容器利用と再資源化の試行・検証」、「海とのつながりを実感する仕掛け」という3つの取り組みを重視して行っていく予定。日本財団の常務理事・海野光行さんは「日本財団もこれまでの調査の結果や知見を活かしながら、企業の皆さんのハブとなって成長をサポートしていきたい」と話し、さらに、笹川陽平会長は「日本財団をプラットフォームとして、新しい素材の開発や海洋について産業界のイノベーションを起こしていくことを期待している」と語っている。

No.	7	エリア	全国	投稿日	2020.08.17
カテゴリー	コスプレ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1120		



コスプレ×海ごみ アワード決定～28か国のコスプレイヤーが海洋ごみ対策～

「世界コスプレサミット 2020 ONLINE」にて、「コスプレde海ごみゼロアワード」が8月2日に開催されました。このアワードは、海洋ごみ問題の周知啓発や削減を行っているコスプレイヤーに活動実施を呼びかけ、優れた取り組みを世界中から募集・発掘して広めるもので、日本財団と世界コスプレサミット実行委員会が共同で開催。『進撃の巨人』に登場するキャラクターのエルヴィン・スミスに扮してプレゼンターを務めた日本財団の常務理事・海野光行さんが「私達が海洋ごみの問題を扱っている中で、若い人たちにリーチできていない現状があった」と語っているように、発信力があり、環境問題への関心が高いコスプレイヤーを通して、若い世代の海洋ごみ問題の意識を高めるために実施されました。

このアワードには、「アクション部門」と「コスチューム部門」があり、2019年10月から募集を開始。なんと28か国から300件を超える応募があったそうです。その中から、コスチューム部門でグランプリに輝いたのは、煌びやかなドレスをつかったインドネシアのMai Maiさん。100本以上の使用済みペットボトルやビニール袋、包装などを使ってコスチュームをつかったそうです。ドレスのクオリティはもちろん、つくり方を学べば誰でもできる手ごろさから幅広い影響力を期待できることも受賞の一因になったとのこと。そして、アクション部門でグランプリに輝いたのは、同じくインドネシアの「Machipot Cosplay Indonesia (マチポット・コスプレ・インドネシア)」というチームです。インドネシア政府が行っている「ストップ プラスチックバック キャンペーン」の意識を高めるため、コスプレイヤー達が街の人から不要となったペットボトルやビニール袋を回収。その代わりに、用意していた布製のエコバック500枚を配布しました。さらに、写真撮影用のボードも制作し、海洋ごみ削減の啓発活動も行いました。海野さんは「非常に大きな海洋国家であるインドネシアの中から問題を定義して、実際に動いてくれた。コスプレイヤー達が動いて、インドネシア国内や他の地域にも海洋ごみ削減の動きが伝播していくことを期待したい」と語っています。

その他にも、ベルギー、イタリア、ロシア、イギリスのコスプレイヤーが受賞し、2部門で計8組が表彰されました。その受賞者には最大100万円の活動奨励金を贈呈。さらに、「アンバサダー」としても任命し、今後、各国で開催される国際シンポジウムなどで活躍してもらう予定です。日本のコスプレイヤーの受賞者がいなかったことについて、「まだ国内でも私達自身が手掛けていかなければいけないところがあり、次の課題だと思っている」と海野さんは語っています。そして、アワードの最後には、『進撃の巨人』の名台詞になぞらえて、「ごみで溢れかえってしまったこの海の現実は、いずれ誰かが変えなくてはならない。いま一度、人類に地球に、そして、未来の世代に対して、心臓を捧げよ！」と海洋ごみ削減を呼びかけました。

No.	8	エリア	全国	投稿日	2020.08.21
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1124		



海の安全を守るポツンと海の家～片瀬東浜海岸に建設された“釘のない海の家”～

2020年の夏は、新型コロナウイルスの影響で、開設されない海水浴場やライフセーバーが常駐しない海があります。そのため、水辺の事故が増える恐れがあります。そこで、水辺の事故を防ぐために必要なことや実施している取り組みなどを専門家に聞いていきます。第2回目は、「NPO法人 海さくら」の理事長・古澤純一郎さんです。

神奈川県藤沢市にある片瀬東浜海水浴場は、新型コロナウイルスの影響で今年は開設しておらず、海の家も営業していません。ところが、ひとつだけ海の家が建っています。この海の家は、日本財団とNPO法人海さくらが2017年から毎年建設している「釘のない海の家」です。「僕たちは江ノ島で2005年からごみ拾いをしているが、ごみを拾っている時に釘がたくさん出てきた」と古澤さんが話しているように、かつての片瀬東浜は、海を家の解体後、浜に多くの釘が取り残されていて危険だったそうです。そこで、他の海の家や全国の浜への安心・安全な浜づくりの手本になるように、また「浜から釘が減ってほしい」という願いを込めて、釘を一本も使用しない「釘のない海の家」が建てられたのです。

ただ、今年は海水浴場が開設されないため建設しない予定でした。しかし、古澤さんは「藤沢市から釘のない海の家を建てて欲しいと要請があった」と言います。その理由は、海岸が無法地帯化する恐れがあるためです。片瀬東浜では自己責任で海水浴ができます。実際に、海水浴をしに訪れた人もいて、「夏といったら海なので来たくてしょうがない」、「海水浴場が開設されていないのは知っていたが、天気の良い日とかで江ノ島が映ると、人がいるなと思って」と話しています。また、海水浴でなくても、多くの海岸利用者が訪れるだろうとも懸念されていました。そのため、監視する人がいない状態では海岸が無法地帯になる可能性があり、藤沢市はライフセーバーを派遣することにしました。そして、「日本財団と相談して、浜を安心・安全に保つために建てよう」と決定したと古澤さんがその経緯を語っているように、ライフセーバーの待機場として、釘のない海の家は今年も建てられたのです。ちなみに、ライフセーバーは、8月31日まで毎日、午前10時～午後3時まで駐在しています。

そんな釘のない海の家について、古澤さんは「ライフセーバーはすごい喜んでくれている。間伐材でつくられているからとても心地がいいし、便利だと言ってくれている」と胸を張ります。実は、海の安全を守るための重要な拠点として様々な工夫が施されているのです。例えば、ライフセーバーが監視しやすいように床が高くなっていたり、救護所に砂が入らないようになっています。これらの工夫は年々進化させていて、今年はジェットスキーやバギーが入るようにしたそうです。

ただ、釘のない海の家があり、ライフセーバーが常駐しているとはいえ、今年の片瀬東浜は例年とは違って万全の安全体制ではありません。そのため、海へ行くのを控えたり、自分たちで対策をするのが重要なのではないのでしょうか。

No.	9	エリア	全国	投稿日	2020.09.12
カテゴリー	コスプレ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1128		



小泉環境相もコスプレイヤーとごみ拾い～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク」開始～

東京タワー周辺にて清掃活動を行う「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」が2020年9月12日に行われました。このイベントは、日本財団と環境省による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロウィーク」のキックオフイベントとして開催。この清掃キャンペーンは、海洋ごみ問題の周知啓発と、ごみの海への流出を少しでも防ぐことが目的となっています。

「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」には、コスプレイヤーをはじめ、セブン-イレブン・ジャパンや全国清涼飲料連合会など約200人が参加をして清掃活動を実施。さらには、小泉進次郎環境大臣もごみ拾いを行いました。

小泉進次郎環境大臣は「7月からレジ袋の有料化を始めたが、レジ袋を使わずにマイバックやエコバックを使う人がかなり増えた。調べによると、コンビニでは7割から8割の人がレジ袋を使っていないという。今日のごみ拾いでトレーを拾ったが、レジ袋にとどまらず、プラスチック製品を代替素材に代えたとか少しでもごみを減らせるとか、そういうことに繋がる取り組みを後押ししていきたい。そして、今回の海ごみゼロの取り組みが、海を抱えている地域だけではなく、川も山も全ては繋がっているという理解のもとに広がっていくと嬉しい」と話しています。また、人気マンガ「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公・ルフィのコスプレ姿で参加した日本財団の笹川陽平会長は「日本が環境先進国、そして、世界の海をキレイにするリーダーになろう」と呼びかけました。

「秋の海ごみゼロウィーク」では、9月12日から「WORLD CLEANUP DAY」である9月19日までの1週間、全国の約400箇所で行われ、20万人が参加する予定です。

No.	10	エリア	全国	投稿日	2020.09.17
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1134		



Jチームが海ごみで最優秀賞～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」～

日本財団と環境省が共同実施している「海ごみゼロアワード」の表彰式が、2020年9月14日に行われた。海ごみゼロアワードは、海洋ごみ対策において、国内の優れた取り組みを発掘し、広く発信することが目的で、今回は2019年に続き2度目の開催となった。アクション部門とイノベーション部門の2部門に、昨年を上回る314件もの応募があったという。

そして、応募の中から最優秀賞に選ばれたのは、「ヴァンフォーレ甲府エコスタジアムプロジェクト」。2004年から始まったエコスタジアムプロジェクトは、日本のプロスポーツクラブで初めてフード・ドリンクにリユース容器を導入。また、利用客が主体的に関われるように、デポジット方式を取り入れている。その結果、16年間で99万個のリユースカップを使用し、76.2トンのCO2を削減したという。審査員を務めた東京大学の副学長・藤井輝夫さんは、受賞理由について「スポーツが与える影響は非常に大きい。海洋ごみ問題を知ってもらうのに非常に大事だと思う」と語っている。そして、受賞した株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブの代表取締役でゼネラルマネージャー・佐久間悟さんは「この取り組みは、我々クラブが地域の皆様と一体となって取り組んだ結果で協力してくれた方々に感謝している。受賞後の活動については、今、ホームゲーム1試合あたりの温室効果ガス排出量を見える化する共同プロジェクトを進めている。このプロジェクトを最終的には学校などの環境教育プログラムに活用したい」と話している。

海ごみゼロアワードでは、最優秀賞の他にも、「アクション部門 日本財団賞」や「イノベーション部門 環境大臣賞」など、計8つの取り組みが表彰され、活動奨励金が授与された。審査員を務めた気象予報士で俳優の石原良純さんは「海洋ごみ問題は身近なことからやっていけばいいと思う。みんなやっぱり海と繋がって生きていくことは間違いないから、その中で何ができるだろうかと考えた時に、今回スマートフォンのアプリが受賞したように、海洋ごみ問題を啓発する手段として、身近なものであるアプリを利用した取り組みが増えていくと思う」と、今後の海洋ごみへの取り組みについて考えを語った。また、日本財団の常務理事・海野光行さんは「“withコロナ”の時代ではあるが、日本を元気づけるようなプログラムをたくさん実施して欲しい」と期待を述べた。

No.	11	エリア	全国	投稿日	2020.09.21
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1138		



旬のエビで巨匠がロスなし料理～海洋ごみ問題とフードロスを考える「エビフェス」～

秋が旬のエビ。そんなエビは長寿と健康の象徴とされることから、敬老の日は「海老の日」でもあります。そんな海老の日を前に、一般社団法人日本海老協会による「エビフェス！オンライン2020」が9月19日に行われました。このイベントは、日本財団が実施している「海と日本プロジェクト」の一環として、海洋ごみとフードロスの削減を目的に開催され、様々なプログラムが行われました。

海やフードロス問題に貢献した人を表彰する「ベストシニア大賞＆ベスト海老大賞授賞式」では、俳優の西田敏行さんがベストシニア大賞・食卓笑顔賞、杉浦太陽さん・辻希美さん夫妻がベスト海老カップル賞、NHK番組「チョコちゃんに叱られる」を担当している放送作家・海老克哉さんがベスト海老賞を受賞しました。

そして、親子参加型のプログラム「エビ解剖教室」では、会場と北海道から九州まで全国各地の親子をオンラインで繋ぎ、参加した親子がエビの背ワタ取りやカラ剥きなどにチャレンジしました。

さらに、解剖教室で使用したエビを使って行われたのが、食の巨匠たちによる3分クッキングです。落合務や脇屋友詞など、日本を代表する有名シェフがエビを丸ごと使った絶品料理を披露しました。一般社団法人日本イタリア料理協会の名誉会長・落合務シェフは「エビは丸ごと調理できるので、ロスがなるべく出ないようにしている。せっかく生まれてきたエビなので、感謝の気持ちを捧げながら食べれば皆さんも幸せになると思う」と語っています。そんな巨匠たちによるエビレシピは、エビフェスのHPなどで公開されています。

その他、プラスチックごみ問題についてのトークセッションなども行われました。一般社団法人日本海老協会の理事・藤井稚代さんは「エビは殻と身の間には“うま味成分”がある。巨匠には家でも簡単につくれるようなレシピにしてもらったので、多くの家庭でエビを丸ごと使ってみて欲しい。エビフェスを通して、10年後、50年後、100年後もキレイな海を守るということをひとりでも多くの人に伝えたい」と話しています。海老の日でもある敬老の日には、エビ料理をつくってみてはいかがでしょうか？

No.	12	エリア	全国	投稿日	2020.10.07
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1142		



育てたヒラメを最後どうする？～小学校で海の魚を養殖する「陸養プロジェクト」～

東京都台東区にある東浅草小学校で、「陸養プロジェクト」の受け入れ式が9月30日に行われました。2020年度で3年目となった陸養プロジェクトは、日本財団による「海と日本プロジェクト」の一環として、小学校で海の魚を養殖し、海の恵みと命の大切さを考えるという取り組みです。今年は東浅草小学校の他、4つの小学校でヒラメの養殖が実施されます。

受け入れ式が行われた東浅草小学校では、「ヒラメが水族館とかで見た時よりも小さくてビックリした」、「すごくかわかった」と大興奮。水槽の掃除の方法なども学んだ児童たちが、これから約半年かけて育てていきます。

そして、この陸養プロジェクトで重要な学習が、なんと「最後に食べるかどうかを決める」というものです。2019年度の陸養プロジェクトに挑戦した渋谷区立加計塚小学校では、「みんなで食べる」、「海に放流する」、「下級生に育ててもらおう」という選択肢の中、児童たちがどうするかを議論。「海の大切さやヒラメに愛着を持つために育てているのだから、食べるのではなくヒラメに長生きしてほしい」といった意見や「最後に食べる方が命の大切さを理解しやすいと思う」など、それぞれの考えをぶつけ合いながら真剣に話し合いました。その結果、「みんなで食べる」という結論になり、実行。児童たちがヒラメに手を合わせ、感謝を伝えながら食べていると、NPO日本養殖振興会（カリキュラム監修・水槽考案）の代表・齊藤浩一さんが「ヒラメはみんなの命になった。だから、みんなの中にヒラメの命はある。食べるということはそういうこと。そこをぜひみんなに覚えてもらいたい。だからこそ感謝が必要なんだ」と話しました。

東浅草小学校でも育てるだけでなく、最後に食べるまで議論し実行することで、命について学ぶのです。齊藤さんは「養殖を子ども達に理解してもらおう。その中で、“食べる”という命の勉強を最終的に行うことで、今後、海にどう向かい合っていくかというのを総合的に学んでもらいたい」と語っています。

児童は「ヒラメの命を大切にすることを学びたい」と話していますが、「命を大切にすること」の本当の意味をこれから学んでいくのです。

そして、海と日本プロジェクトでは、10月10日の魚（とど）の日から10月16日までの1週間を「海のごちそうウィーク」と定め、海のグルメを堪能してもらうために様々な取り組みを実施するそうです。海のグルメを食べるを通して、海が環境が今どうなっているのか、食べるとはどういうことなのかを考えるきっかけにしてはいかがでしょうか？

No.	13	エリア	全国	投稿日	2020.10.11
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1146		



厳選グルメから食と海を考える～29県の絶品海グルメを販売「全国海の贈り物フェア2020」～

新宿タカシマヤタイムズスクエアにて、「全国海の贈り物フェア2020」が、10月3日と4日に開催されました。昨年に引き続き開催されたこのイベントは、「食育」がテーマのひとつとなっています。全国海の贈り物フェア事務局の俣野喬仁さんは「食についてもっと理解を深めてもらう、食により親しみを持ってもらうというのが目的。そして、日本の食を考える中で海産物というのは欠かせない」と話します。そこで、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の中から29のエリアが集まり、厳選した海産物を販売。例えば、鳥取県のブースで販売されていたのが「かにみそバーニャカウダ」で、この商品は昨年の全国海の贈り物フェアで最も人気だったそうです。その他にも、北海道から鹿児島まで、海に関する商品が80種類ほど販売されました。俣野さんは「並べて比較してみてもらうことで、改めて海の有難さや日本の食の豊かさを再確認できる」と言います。ちなみに、「かにみそバーニャカウダ」など一部の商品は、お取り寄せで購入することも可能だそうです。

さらに、物販の他にも、海について知る・学ぶステージイベントも開催。クイズ王・古川洋平さんプロデュースの海に関する早押しクイズ大会「子ども海のクイズ王プロジェクト」や、立川こしらさんによる海落語などが行われました。「フェアを通して、それぞれの都道府県の食文化や海との関わりを今一度認識してもらいつつ、楽しんでもらえたら」と、俣野さんはこのイベントの意義を語っています。

さらに、このイベントだけでなく、海と日本プロジェクトでは、10月10日の魚（とと）の日から10月16日までの1週間を「海のごちそうウィーク」と定め、海のグルメを堪能してもらうために様々な取り組みを実施します。

海のグルメを食べることを通して、海の環境が今どうなっているのかを考えるキッカケにしてみたいかがでしょうか？

No.	14	エリア	全国	投稿日	2020.10.13
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1149		



30年後は海のご馳走が無い？～サンマにあんこうなどの魚を食べて海を考える「海のごちそうウィーク」～

「海のごちそうウィーク」が、10月10日の魚（と）の日から16日まで開催中です。このイベントは、「海のごちそうを食べる」ことを通じて海のことを知って考えるというもので、期間中は様々な取り組みが実施されています。

その1つが、「オンラインさんま祭り2020」です。これは、日本さばけるプロジェクト実行委員会と日本財団が、新型コロナウイルスの影響で中止が相次いでいる秋の風物詩「さんま祭り」を、10月10日にオンラインで実施したものです。トークセッションでは、服部栄養専門学校校長で日本さばけるプロジェクト実行委員長でもある服部幸應さん、管理栄養士の資格を持つタレントの水野裕子さん、唸家の鈴々舎馬るごさん、環境科学者で気象予報士の井手迫義和さんが登場。「海水温が上昇している影響で、だんだん魚が小型化していると聞いている」と服部先生が話すなど、魚の未来について熱く語り合いました。その他にも、鈴々舎馬るごさんによる「オンラインさんま寄席」や、水野裕子さんによる「オンラインさばける塾」も行われました。オンラインさばける塾では、さんまを捌くだけでなく、水野さんオリジナルのさんまレシピ「さんまのトマトソースステーキ」も披露。「さんまの栄養で最も重要なのは、身に含まれている脂。この脂を余すことなく取るためにフライパンで焼く。さらに、フライパンに流れ出した脂もトマトソースに使用するメニューになっている」と、水野さんは話しています。

さらに、「海のごちそうウィーク」では、飲食店も連携。養老乃瀧グループでは、期間中、22の店舗にて、茨城県久慈漁港で獲れた「あんこう」を使った唐揚げを販売します。養老乃瀧株式会社・特命プロジェクトリーダーの粕谷佳生さんは「あんこうが旬の時期でもあるので、お客様には“あんこうの唐揚げ”を通じて、海の大切さを知ってもらいたい。また、食べる人が海のことを考えるきっかけになれば」と参画した意義について語っています。

また、地域の魚などでメニュー開発を行い、飲食店と連携する事業「トタペローネ」では、北海道・函館の「函館ブリたれカツ」、山形県・庄内浜の「庄内浜の鯛だし麺」、富山県・射水の「射水シロエビ・くりむ・コロッケ」、鹿児島・桜島で「桜島美味深海（おいしんかい）バーガー」と、4つの地域で新メニューを展開しています。

そして、レシピ動画メディアの「DELISH KITCHEN」では、InstagramとTwitterで海の食材を使ったレシピが公開中です。

その他、「トタペローネ」、「日本さばけるプロジェクト」、「Sea級グルメスタジアム」では、「海のごちそう」が当たるキャンペーンまで実施するなど、数多くの取り組みが実施されています。日本財団・海洋事業部リーダーの日高将博さんは「魚が2050年には食べられなくなるかもしれないということで、魚を食べるだけではなく、その魚を生かしてくれている海の問題についても考えてみよう、そういったメッセージを海のごちそうウィークでは伝えたい」と語っています。

No.	15	エリア	全国	投稿日	2020.10.30
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1153		



Go To 灯台！～全国各地で灯台の一般公開などを行う「海と灯台ウィーク」～

11月1日は「灯台記念日」。

その記念日にちなみ、日本財団と海上保安庁は、11月1日から8日までを「海と灯台ウィーク」と銘打ち、全国各地で様々なイベントを行うと10月26日に発表した。

日本財団が行った「海と灯台の意識調査」によると、約62%の人が「灯台を訪れたことがある」と回答。しかし、その多くは「人生で1回」「10年に1回程度」と訪問の頻度は低かったという。そこで、歴史と文化があり、地域の「海のシンボル」として観光資源でもある灯台への関心を高めるため、「海と灯台ウィーク」で「灯台へ行こう！」と呼びかける。ウィークでは、灯台の一般公開や49の市町村にキャンペーンステーションを設置するほか、灯台をキャラクター化するプロジェクト「燈の守り人」も始動するという。日本財団の会長・笹川陽平氏は「49の市町村とともに灯台にまつわるイベントを開催することで、今一度、灯台の存在と海を守ってきたその歴史をこれからの人に知ってもらいたい」と話した。また、海上保安庁の長官・奥島高弘氏は「国民の海への関心が深まり、灯台がより身近になれば」と海と灯台ウィークへの期待を語った。ウィークは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施される。

さらに、同日の第2部では、2021年から「海と灯台プロジェクト」を実施していくことも発表。今年はプロジェクトの準備の年として、海と灯台ウィークを立ち上げたとのこと。また、灯台の利活用のモデル事業もすでに実施したという。その1つが、北海道江差町で行われた「灯台マリンピングフェス」（「マリンピング」はグランピングをベースにした造語）。このフェスでは、鷗島灯台のそばでキャンプ宿泊をするなど、灯台を舞台に海を体験するキャンプイベントが行われた。北海道江差町の町長・照井誉之介氏は「マリンピングを日本財団の事業などで色んな地域の皆さんに発信していきつつ、こういった事業を全国各地で行ってもらえるように、これからもモデル地域として頑張っていきたい」と話している。日本財団の常務理事・海野光行氏は「海と灯台プロジェクトについては、参加する灯台と自治体をもっと増やしていき、プラットフォームをつくっていく、それが日本財団の果たすべき役割の1つ。また、海と灯台ウィークのような全国一斉の取り組みというものもやっていきたい。さらには、モデルを各地域で数多くつづけていき、そして、色んな取り組みや関係者を加えながら、大きな“うねり”をつくっていければと思う」と語った。海と灯台プロジェクトには、3年で約6億円を投じる予定だという。

No.	16	エリア	全国	投稿日	2020.11.12
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1157		



全国を巡る2人の海の繋ぎ手～東西から日本各地の海の魅力や課題を発信していく熱源キャラバン～

今、熱源キャラバンカーが日本全国をまわっています。これは、海の繋ぎ手2人が9月にスタートして、東西から全国の“熱源”を巡り、海の魅力や課題を発信する「熱源キャラバン」というプロジェクト。「海に対して熱い想いを持っていたり、社会を動かすムーブメントの源になる方達を私達は“熱源”と呼んでいる」と話すのは、東ルートを担当している海の繋ぎ手・市川さゆりさんです。熱源キャラバンカー「海人（かいと）号」で北海道からスタートした市川さんは、この日、神奈川県でしらす漁を体験。さらに、その日に獲れた生しらす丼も食べました。市川さんは「食卓で食べるというところから見ているものを、獲るところから見ることによって、海の生き物が獲れるというのは大切なことだと身をもって体験できた」と話しています。

そんな市川さんは、青森県では熱源・志田崇さんのお手伝いも実施。それが、アマモを植える作業です。アマモは魚たちの生息地や産卵場所であり、また、海水をキレイにするとも言われているなど、海の環境を影で支えている存在。志田さんは、陸奥湾にアマモを植える活動に取り組んでいます。そこで、市川さんも海に潜り、アマモを植える作業に挑戦しました。「普段は表面的に海を見ていたなと思った。キレイな海もただキレイではなく、その下に海の環境を良くするアマモがあるから保たれている」と、市川さんは貴重な体験から学びがあったと言います。

一方で、熱源キャラバンカー「繫人（けいと）号」に乗り込み、沖縄県から西日本をまわっているもう1人の海の繋ぎ手が、門脇大樹さんです。門脇さんは熊本県で会った熱源・東濱孝明さんが印象的だったと言います。東濱さんは、海洋浮遊ゴミ回収機「SEABIN（シービン）」を国内で普及させようと取り組みをすすめる「株式会社 SUSTAINABLE JAPAN」の代表取締役社長。SEABINは、浮かせておけば円筒形の装置が上下し、自動的に周辺のごみを取り込んでくれるというもので、世界的に問題となっているマイクロプラスチックも回収できるそうです。門脇さんは「持続的に海洋ごみを回収することは人間には出来ない。こういう機械を設置することで、海洋ごみ問題の環境改善のスピード感なども上がっていくのではないかとことを学べた」と語っています。

その他にも、市川さんは長野県で山を登って千曲川の源流に行き、山も海に繋がっていることを直に感じたり、門脇さんは和歌山県で海女漁にチャレンジをしたりと、様々なかけがえのない体験をしています。そして、その模様を熱源キャラバンのHPやSNSなどで発信中です。そのゴールは、2021年に「熱源サミット」が開催される予定の島根県出雲市。そんな熱源サミットに向けて行われている熱源キャラバンを通じて、2人には伝えたい想いがあり、市川さんは「熱源キャラバンの発信を見た人達が環境保護の問題などを自分事のように思ってもらいたい」と語り、門脇さんは「豊かで美しい海を未来に引き継ぐためのキッカケをつくってきたい」と話しています。

熱源キャラバンは、11月20日に出雲市で到着式を行う予定です。

No.	17	エリア	全国	投稿日	2020.11.19
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1162		



コロナ禍と全国の水辺の事故～減少した救助出動件数の裏には海の安全を守る人達の活動が！？～

2020年は新型コロナウイルスの影響で、海水浴場が開設されなかったり、ライフセーバーが常駐しない海などがありました。そのため、水辺の事故が増える恐れがありました。そんな中、水辺の事故を防ぐために必要なことや実施している取り組みなどを取り上げる最終回は、「全国で行われた水辺の事故を防止するための取り組み」です。

今年、水辺の事故を防ごうと、「ライフジャケットの正しい着用方法」や「着衣水泳」、「溺れそうになった時の浮き方のレクチャー」といった多くの取り組みが、北海道から沖縄県まで全国各地で行われました。

その中の1つが、宮崎県の青島海水浴場です。この海水浴場では、ライフセーバーの監視のほか、溺れる原因として最も多い「離岸流」への新たな対策も実施。それが、岸から沖への速い流れである「離岸流」を感知し、スマートフォンに通知するアプリです。日本ライフセービング協会の常務理事・石川仁憲さんは「流れというのは普通の人は分からない。そのため、離岸流が危険だというのは、そこが危険だという認識が最初は分からないから。導入したアプリは、溺水が起きないようにするために、利用者に離岸流の場所を教えるシステム」と話しています。

また、富山県には、新たに組織を設立しようと奮闘している人がいます。それが、富山市にあるIT企業の営業マン・宮田真一さんです。実は、富山県にはライフセーバーの組織がありません。そこで、スイミングやトライアスロンなど、屋外スポーツの愛好家を集めた「チーム アバンテ」の代表者でもある宮田さんは、ライフセーバーを目指しつつ、賛同者を集めてライフセーバーの組織づくりを行っています。宮田さんは「万が一、溺れている場面などに遭遇した時、自分達はたくさん泳ぐことが出来ても、果たして溺れている人を助けることが出来るのかと思った。そのため、正しい知識を自分自身が習得する必要があると考えた」と語っています。宮田さんは、2021年の夏を目標に組織設立を目指しているそうです。

No.	17	エリア	全国	投稿日	2020.11.19
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1162		



さらに、ライフセーバーのほかにも、海の安全を守っている人がいます。それが、ボランティア救助員です。ボランティア救助員は、本業は別の仕事をしている方達が休日などに活動。そして、海の事故が発生した場合に、海上保安庁などから救助出動要請があると、その名の通りボランティアで救助にあたります。公益社団法人 日本水難救済会の常務理事・加賀谷尚之さんは「海の事故に関して、一義的には海上保安庁や消防、警察の公的機関が救助にあたるが、なかなか全ての事故に対応できない部分がある。それらを補完するために民間のボランティア救助員がいる」と話しています。そんなボランティア救助員は、全国に5万人以上いて、約1300ある各地の救難所に所属しています。その救難所の1つが、千葉県にある「富津岬PW救難所」です。「マリンスポーツの方を救助する活動をしている」と富津岬救難所の副所長・古賀健一郎さんは話します。こうした救助活動には、活動の支援として、救助出動報奨金が交付されるそうです。公益社団法人 日本水難救済会の総務部長・木下栄次さんは「水難救済事業の中に救助出動報奨事業があり、日本財団に助成を受けている。その事業から、自然環境が厳しい状況での救助活動もしているボランティア救助員の労苦に報い、活動を奨励・支援するものとして、救助出動報奨金を交付している」と語っています。そんな水難救助に備えるため、ボランティア救助員は日頃から訓練を欠かしません。さらに、富津岬PW救難所では、新型コロナウイルスの影響を受けた2020年は普段行っているパトロールの範囲を拡大し、開設が見送られた海水浴場でも1日数回 実施していました。古賀さんは「海というのは、天気も風向きも変わりやすい。海に遊びに来る方は、大きい天気図ではなく、その場所の天気予報を見たり、風の向きとかも見るといい」と、事故を未然に防ぐために注意すべきことを教えてくれました。

コロナ禍だからこそ、海の安全を守る取り組みが多く実施された2020年。4月から8月までの救助出動件数を見てみると、2019年は181件でしたが、今年は156件と減っています（10月30日時点での地方水難救済会からの報告ベース）。コロナ禍にあっても、こうした海の安全を守る人達の活動が、水辺の事故の減少に大きく貢献していたと言えるのではないのでしょうか。

No.	18	エリア	全国	投稿日	2020.12.02
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1166		



コロナ禍でも高校生が熱闘！～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定！スポGOMI甲子園～

「海と日本プロジェクト スポGOMI甲子園2020」の決勝が、東京・墨田区にて11月22日に開催されました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技で、スポGOMI甲子園は、高校生による全国大会。この日は、地区大会を勝ち抜いた23チームが出場。新型コロナウイルスの影響から12組が東京に集結、11組はオンラインでの出場となりました。

「チェンジ・フォー・ザ・ブルー！」の掛け声とともに、高校生のごみ拾いチャンピオンを決める戦いがスタート。スポGOMIは、3人1組のチームで、制限時間内にごみを拾い、その量と質でポイントを競うものです。そのため、体力だけでなく、知力も必要になります。岐阜県代表・ボーイスカウト岐阜第8団ベンチャー隊は「たばこペットボトルのポイントが高いので、小さな道に落ちているたばこをいっぱい拾う」という作戦を練り、大会に臨んでいました。

そして、1時間の激闘を終え、東京会場で優勝したチームは、埼玉県代表の掃除部Cチーム。このチームは、15kgものごみを拾いました。「競技が始まる前に、朝早くからごみの場所を探すことに専念して、始まったら誰よりも早くそこに行けるように準備をした」というのが勝因だと言います。また、「通学の時でも、そこら中にごみが落ちていたので、自分たちが拾っていきなさいと思う」と、今後もごみ拾いを続けていきたいと話しています。また、リモート会場で優勝したのは、兵庫県代表の「豊岡総合高校インターアクトクラブ チームOIK」です。なんと約50kgものゴミを回収しました。さらに、表彰されたのは、入賞チームだけではありません。今回の大会から「オリジナルアイテム」の制度が導入され、岐阜県代表・ボーイスカウト岐阜第8団ベンチャー隊が、オリジナルアイテム賞を受賞しました。このチームは、なんと電卓とラジオを使って金属探知機を作成したのです。その他にも、女子高生3人の石川県代表・ホヌビキママは、持ち運びしやすいように、パイプを使って組み立て式のごみ箱用台車をつくるなど、各チームは、自作したオリジナルアイテムを駆使して、効率的にごみ拾いを行いました。日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんは「今回159のアイテムが全国で生まれました。来年の大会では、優秀な機能のものは商品化に向けて動こうと考えている」と、次なる展開に意欲を燃やしていました。

リモートも活用し、コロナ禍でも大盛況のうちに幕を閉じたスポGOMI甲子園について、日本財団 海洋事業部 海洋チームリーダーの宇田川貴康さんは「今年はコロナ禍で色んな大会やイベントが中止になっている。そんな中でも、今日のリモートも利用した選手の戦いは、スポーツ大会のひとつのモデルとなればと思う」と話しています。また、馬見塚さんは「高校の先生からは、体育祭がなくなったり、修学旅行が延期になったりなどしているため、何かを生徒にさせたいという想いがあったと聞いている。そんな中、親御さんや学校関係者の協力もあり、大会が開催できたことがすごくうれしい。今年は全国25都道府県での開催だったが、来年はさらに増やしたいと考えている。高校3年間の内しか出られないスポGOMI甲子園なので、ぜひエントリーしてごみと向き合って欲しい」と語っています。

No.	19	エリア	全国	投稿日	2020.12.02
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1170		



全国の熱源を2か月巡りゴール～2021年の熱源サミットに向け新たな展開「熱源プロジェクト」～

日本全国をまわっていた「熱源キャラバン」の到着式が、島根県の出雲ドームで2020年11月20日に行われました。熱源キャラバンとは、海への「熱い」想いをもち、社会を変える力の「源」となる人を「熱源」と呼び、日本全国にいるその熱源を巡るプロジェクトです。海の繋ぎ手2人が、約2か月かけて東西から熱源を巡り、海の魅力や課題をHPなどで発信してきました。

(熱源キャラバンを取り上げた「全国を巡る2人の海の繋ぎ手」)

「僕にとって熱源キャラバンとは、海を知ることができる成長の場でした」と振り返るのは、熱源キャラバンカー「繫人（けいと）号」で沖縄県からスタートし、西ルートを担当した門脇大樹さんです。門脇さんは「僕は海洋ごみをテーマにまわっていたが、解決策が1つだけではないとか、解決する理由が1つだけではないというのが、たくさんの場所で見ることができた。ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた“スポGOMI”は主催もしてみたいと思った」と、様々な学びがあったと言います。

一方で、熱源キャラバンカー「海人（かいと）号」に乗り込み、北海道から東日本をまわったのが、市川さゆりさんです。「熱源キャラバンを通して、自分の役割という部分がすごく変わった。ただ海が好きということから、海の豊かさをもっと伝えていきたいという想いに変った」と市川さんは言います。特に、熱源との出会いが成長に繋がったようで「熱源と色々な話をする度に多くを学ぶことができ、理解できるようになっていった。また、別の熱源と話した時に話が繋がっていくのを感じ、自分の成長を感じることができた」と語っています。

そんな熱源キャラバンは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として活動する「熱源プロジェクト」の土台の部分で、予定では今回の熱源キャラバンを経て、熱源が一堂に会する「熱源サミット」が、島根県出雲市にて開催されるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの影響から熱源サミットは1年延期に。そのため、到着式で「2人に再び日本をまわってもらう」ことがサプライズで発表されたのです。さらに、日本財団の常務理事・海野光行さんから告げられたのが、「熱伝（ねつでん）」という次のコンセプト。海野さんは「今回のキャラバンで2人は熱源になれた。皆さんの想いを熱源として他の方々にぜひ伝えていってもらいたい。そういう想いと期待を込めての“熱伝”」と発表しました。市川さんは「サプライズはビックリしたが、キャラバンを通して、熱源の熱がもっと伝わって欲しいと感じていた。自分のできる役割としては、体験だけではなく、それを通してどう感じたのかを伝えていきたい」と抱負を語り、門脇さんも「僕が学んだことを色々な人に伝えたり、魅力とか問題を伝えていくことが、この後自分ができることだと思う」と話しています。そして、海野さんは「出雲から全国規模のプログラムが生まれる可能性もあるので、そういった期待を熱源サミットにしている。2人には今回の経験を踏まえて、様々な熱源を探してきてくれるのではと思う」と、熱源サミットと再び走り出す熱源キャラバンへの期待を語っています。

No.	20	エリア	全国	投稿日	2020.12.25
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1176		



水族館からのオンライン授業～オンライン謎解き「海なぞ水族館」に先駆けて行われた海洋問題の授業～

「ジンベエザメの生態と海洋プラスチック問題に関する特別オンライン授業」が、東京の世田谷区立用賀中学校で、2020年12月17日に行われました。この遠隔授業は、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環で、大阪にある世界最大級的水族館「海遊館」など、全国6園館が参加する謎解きプロジェクト「海なぞ水族館」のリリースに先駆けて実施。「海なぞ水族館」とは、市場規模500億円ともいわれている「謎解き」をオンライン上で楽しみながら、「海洋問題」について学べるゲームです。

特別オンライン授業は、参加園館の「海遊館」が、用賀中学校の生徒たちに向けて、海洋問題への理解を深めてもらうために、海遊館で人気のジンベエザメの生態や飼育方法、東京と大阪の海について、そして、SDGsや海洋プラスチック問題などを講義。授業を受けた生徒は「ごみが広がっている写真は、普段見る機会がないので衝撃的だった。今後、ごみ拾いのボランティアがあれば、友達を誘って積極的に参加したい」と、海洋問題を考える機会になったようです。また、草開宣晶校長は「本校では、社会の変化に柔軟に対応できる力を持った生徒を育成することを目指している。その中で、SDGsを知るといのは、大変大きなことだと思っていて、今回のような遠隔授業は本当にありがたい」と言います。

「海なぞ水族館」を制作している海なぞ実行委員会の実行委員長・大嶋麻沙美さんは、「海なぞ水族館は、参加する6園館のメインの水槽をイラストなどで再現します。そして、水槽の生き物たちと会話をしながら、謎を解き進めていく。そのストーリーの中に海洋問題が組み込まれているので、遊びながら海洋問題を疑似体験して学ぶことができる。今はコロナ禍で旅行や出かけることが難しい時期だと思うが、海なぞ水族館で疑似体験してもらえれば」と、海なぞ水族館への想いと期待を語っています。また、授業を担当した海遊館の飼育展示部・普及交流チームは、「ひとりでも多くの方が、海やそこに暮らす様々な生き物の素晴らしさ、直面している問題を知り、素晴らしい海の環境を未来に残すために、何ができるのかを考えるきっかけになって欲しい」と、海なぞ水族館の意義を話しています。海なぞ水族館は、2021年1月7日から2月28日まで公開されています。

No.	21	エリア	全国	投稿日	2020.12.28
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1179		



院内学級の生徒が海中体験！～Virtual Ocean Projectが実施したオンライン授業「水中ドローン×VR」～

Virtual Ocean Projectが、愛知県立大府特別支援学校の生徒たちへ向けて、オンライン授業を2020年12月25日に行いました。Virtual Ocean Projectとは、日本財団が行っている「海と日本プロジェクト」の一環で、水中ドローンとVR技術を組み合わせ、新しい海洋VRコンテンツを発信しているプロジェクトです。

授業は、神奈川県との会場と愛知県立大府特別支援学校を、オンラインで繋いで実施されました。その内容は、水中ドローンの活用が広がっていることから、ドローンを利用して海の問題や困りごとを解決する人々を「ドローンダイバー」と名付け、その架空の職業を生徒たちが体験。魚や水質の調査といった依頼をこなしながら、海洋問題を学ぶというプログラムです。ドローンダイバーの疑似体験には、海中VRと水中ドローンを活用。生徒が「上」と言うドローンのカメラ映像が「上」を向く、「ショット」と言うと写真撮影された海の生き物と解説が表示されるなど、ドローンで事前に撮影した360度映像を音声で操作できるシステムになっています。生徒たちは、体験すると「ショット」を連発するなど大興奮。楽しみながら海洋問題について学べたようで、「水中ドローンだと、人間ができないところや危険が伴うところでも作業できるのが、とてもすごいと思った。また、海洋問題では、私たちの行動が、全く関係のない海の生き物にも影響を与えてしまっているの、今後気をつけていきたい」と語っています。バーチャルオーシャン制作委員会の並河大地さんは、「コロナ禍で海に行けなかった子どもたちや、色々なバリアがあって海に行けない状況の院内学級の生徒たちには、海体験の格差がある。それを解消するために、VR技術などを使い、実際に海に行っているような体験をしてもらうシステムとなっている」と言います。そんなこのシステムは、2021年の春頃、Virtual Ocean ProjectのHPなどから申し込むことで、誰でも体験できるようにする予定です。並河さんは「Virtual Ocean Projectを通して、海の素晴らしさや問題を伝えていきたい」と語っています。

No.	22	エリア	全国	投稿日	2021.01.21
カテゴリー	安全・そなえ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1188		



介護スタッフに無料PCR検査～約10万人が毎週1回を目安に日本財団が実施へ～

日本財団は、新型コロナウイルス対策支援の第4弾として、東京都内の介護・福祉施設のスタッフなどを対象に、無料でPCR検査を提供すると、2021年1月19日に発表した。

死亡者の80%以上が高齢者という現状や高齢者福祉施設でのクラスターが多数発生していることから、日常的に高齢者に接する高齢者施設などのスタッフに、定期的なPCR検査を実施することで、クラスターの回避や医療崩壊の防止、感染不安の解消に繋がってほしいという。実施期間は、緊急事態宣言が解除される予定の2月8日から7月までで、約10万人が毎週1回の検査を受けられるように、200億円の予算を組んでいるとのこと。検査内容に関して、対策支援に協力する災害人道医療支援会「HuMa」の常任理事で淀川キリスト教病院 救急科・集中治療科の副部長・夏川知輝医師は「導入している検査機器は、診断に使用できる精度のもの」と話す。また、陽性・陰性の判断は、協力病院である日本医科大学付属病院、聖路加国際病院、東邦大学医療センター大森病院、順天堂大学医学部の医師が担当するという。さらに、日本財団の常務理事・海野光行氏は「管轄の保健所と調整済みのため、結果が陽性だった場合、保健所も確定診断と受け取る」と、陽性者が病院などで再検査をしなくて済むものと説明した。

さらに、検査で陽性者が出た施設には、専門医による対応の支援、入居者全員への追加検査の実施と支援、短期間での職員補充といったアフターフォローも検討しているという。

海野氏は「今回の対策支援は、病院やHuMA、ロボットによる自動化 PCR 検査の川崎重工業株式会社など、様々なネットワークを重ね合わせている。これは、推進している『海と日本プロジェクト』において、異分野の要素を積極的に取り入れたうえで様々な共同事業を行ってきた経験が活かされていると思う」と話している。そして、日本財団の会長・笹川陽平氏は「犠牲者がひとりでも減るようにすることで、新型コロナウイルスの問題を早く解決するようにしたい」と対策支援の意義を語っている。

No.	23	エリア	長崎県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1192		



海のクイズ王で学校のヒーローに～クイズ王・古川プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」～

全国8県の小学校で「子ども海のクイズ王プロジェクト」が、2020年10月から2021年1月まで行われました。このプロジェクトは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施されたもので、各学校で5・6年生が参加するクイズ大会を開催。クイズを通して、海が抱えている問題や日本の豊かな海を知ってもらうという授業です。

主軸として関わっているのは、「クイズ王」として数々のテレビ番組に出演しつつ、クイズ作家やYouTuberとしても活躍している「クイズ法人 カブリティオ」の代表・古川洋平さんです。子ども海のクイズ王プロジェクトでは、クイズ作家として問題作成も担当。普段のクイズよりも工夫して作成したそうで、「普段のクイズは全世界にある森羅万象から出せるので、色々なジャンルから1個ずつ作成するだけでも、相当な数ができる。しかし、今回は“海”がテーマだったため、普段よりは情報が少ない。そこで、例えば『海の生き物の名前』が答えだったり、海を扱った映画の『崖の上のポニョ』が答えだったり、同じような問題にならないにした」と言います。さらに、普段からクイズイベントで司会進行も務めていることから、現地での司会も担当しました（※各学校で2回ずつ開催。司会担当は1回目のみ）。そんなクイズの達人が全面監修した大会に、児童たちは“全集中”。どの学校でも大盛況でした。古川さんは「普段、早押し機は触れない。テレビの中でしか起きないことが目の前で起きているというだけで、大人も子どももトキメク。そこはクイズの力だと思う」と語っています。しかし、不安なことがあったと言います。それが、クイズ大会の前に海洋問題などについて学ぶ「レクチャータイム」です。「レクチャータイムでの集中力をどれだけ高められるかというのが、ひとつのテーマだった」と話す古川さんは、数々の工夫を盛り込みました。そのひとつが、レクチャータイムの前に「レクチャータイムでの内容がクイズ大会で出題される」と発表すること。さらに、「海に浮遊するレジ袋のせいで死んだラッコ」を紹介するなど、どんな悪影響があるのかを具体的に説明しました。その結果、児童たちは真剣に耳を傾けました。古川さんはプロジェクトに尽力した理由について、「コロナ禍で、学校行事が縮小・中止になったということが非常に多かった。その中で、プロジェクトを総合学習の時間として取り扱ってくれた学校のために、ただ90分の時間が過ぎたという内容にはしたくなかった」と語っています。

そして、大成功となったこのプロジェクトで、特に手応えを感じたことがあると古川さんは言います。「普段はあまり目立たない生徒さんが大活躍されていたそうで、『あの子にあんな才能があったなんて！』と先生たちが驚かされていた。クイズ大会で活躍した子は、その日スターになる。その成功体験というのが、今後の人生に何かを与えられる可能性もあると思う」と、プロジェクトに意義があったと振り返っています。参加した児童も「色々なことが知れて楽しかった。商品とかを買う時は、プラスチックは避けようと思った」と話しているように、楽しみつつ学べたようです。

2021年度については、プロジェクトのオンライン化や各学校をオンラインで繋いでの大会、海のクイズ大会を学校独自で実施できるようなサポート強化など、さらに進化させた展開を考えていると言います。そして、「小学校の数や規模を広げていき、このクイズ大会をキッカケに誰かの人生が変わっていくという舞台に発展させたい」と今後の展望を語っています。

No.	24	エリア	石川県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1200		



大麦ストロー製品化から1年～アサヒビールと協力、高校生が賛同と広がるプラごみ削減～

石川県にある会社「ロータスコンセプト」の代表・蒲田ちかさんによって製品化されたのが、「大麦ストロー」です。脱プラスチックを目的に、2019年5月から本格生産を開始した大麦ストローは、金沢市のホテルで使用されるなど広がりを見せています。（「麦ストローが広げる脱プラの輪」）

その後、大麦ストローは、自然にやさしい商品に与えられる「ソーシャルプロダクツ・アワード2020」で入賞しました。蒲田さんは「アワードに出して評価されたことにより、様々な問題点や世の中の人達に知ってもらいたいことが、ちゃんと表現された商品だとわかった」と言います。そして、受賞を機に新たな展開がありました。ソーシャルプロダクツ・アワード2020に同じく入賞した「アサヒビール」が、大麦ストローと一緒につくりたいと打診してきたのです。アサヒビールは、宮城県東松島市の震災復興支援として、「希望の大麦」でビールを製造。蒲田さんは「復興のビールを出している大麦で『希望の大麦ストロー』をつくりたいと打診があり、その想いに共感して受けた」と語っているように、アサヒビールと協同で「希望の大麦ストロー」をつくることになったのです。その後、蒲田さんは、6月に現地で収穫を手伝い、麦わらをどうやってストローに加工するかの指導を行うなど、希望の大麦ストロー実現に向けて、全面協力している最中です。

さらに、蒲田さんの大麦ストローへの想いに賛同したのは、アサヒビールだけではなく、それが、金沢大学付属高校に通う保科怜里さんです。保科さんは、大麦ストローに触発され、中学3年生の時から海洋プラスチックごみ問題に取り組んでいます。「蒲田さんがつくっている大麦ストローを使って、プラスチックの使用量を減らすことと、すでに世に出たプラスチックをどうするかを研究している」と話しているように、通う高校では、地域活性化プロジェクトのポスターセッションで、脱プラスチックを目指す大麦ストローの意義や今後の展望を訴えました。さらに、希望の大麦ストローでは、なんと宮城県まで自費で同行し、収穫を手伝ったのです。蒲田さんは「保科さんは脱プラスチックに向けた未来を感じる頼もしい存在」と語っています。

本格生産から1年で大きな広がりを見せている蒲田さんの大麦ストローですが、蒲田さん自身も海洋プラスチックごみ削減に向け、新たな一歩を踏み出しました。それが、犀川での清掃活動です。金沢市の中心部を流れる犀川下流には、数多くペットボトルやレジ袋がポイ捨てされています。そこで、「アーバントラウト 犀川を見守る会」が定期的に清掃活動を行っています。蒲田さんは、海と日本プロジェクトがキッカケとなり、清掃活動に参加。今では「犀川を見守る会」の副代表になり、プラごみ清掃活動にも取り組み始めたのです。蒲田さんは「清掃活動に参加したことで、自分ももっと何か果たさないといけない、大麦のストローを通じて伝えたいと伝えたいことがたくさん増えた」と語っています。

大麦ストローをキッカケに広がる海を守る人達の輪。そして、蒲田さん自身も、さらなる歩みを進めています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinいわい」
協力：石川テレビ放送株式会社

No.	25	エリア	三重県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1202		



学生が海の生き物ロボで授業～地元・三重県のスズキやイルカをリアルに再現したロボットで環境教育活動～

三重県の鈴鹿中学校の生徒たちが、2014年に持ち上げたのが海洋環境保全団体「Save the Ocean Men」、通称「SOM」です。代表の落合真弘さんを中心に約50人の有志が、海洋ごみ問題に取り組んでいます。定期的に地元の海岸を清掃しているほか、海の生き物ロボットを使った研究を実施。研究内容は、海洋ごみに苦しんでいる海の生き物に似せたロボットを使って保全活動をすれば、海洋ごみに対する人々の意識が高まるのではないかと考えています。2017年には、その研究で、海・水産分野・水環境に関わる研究を行う中高生を応援する「日本財団マリンチャレンジプログラム関西大会」に出場しました。当時は「ロボットをつくるというのが第一の目標になっていた。環境イベントなどでの保全活動はできなかった」と落合さんが話しているように、まだ研究の段階で、マリンチャレンジプログラムでも地区大会の出場どまりでした。

しかし、高校3年生となった今では、アカウミガメやイルカ、スズキなどリアルに再現したロボットを使い、幼稚園などで環境教育活動を行っています。そして活動の質を高めていった結果、2019年には、エコ活動をする高校生のためのコンテスト「イオン エコワングランプリ」の普及・啓発部門で内閣総理大臣賞とベストプレゼンテーション賞を受賞するまでに成長したのです。落合さんは「今までの活動は、ただスゴイねと言われるだけだったが、受賞してからは、想いや考えを認めてもらえた感じがする」と語っています。

落合さんなど2021年3月で高校卒業となるメンバーもいますが、今後も活動を続けていきたいと言います。江藤奏さんは「環境活動に行った時に、子ども達が『海に行ったことない』とか『数回しかない』と言っていたので、もっとキレイな海をつくってほしい」と話しています。また、落合さんは、さらなる歩みを進めるべく「これから大学生になるので、それぞれが学んでいくものを取り入れ、活動の質を上げていきたい」と今後の目標を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin三重県」
協力：三重テレビ放送株式会社

No.	26	エリア	兵庫県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1204		



日本最古級の灯台に脚光！～「恋する灯台」認定で盛り上がる淡路島の江崎灯台～

兵庫県の淡路島にある江崎灯台は、明治4年に建設された石造りの洋式灯台です。建設当時の姿のまま現役を続ける灯台としては、日本で2番目に古いという貴重な灯台ですが、歴史的な価値があるにも関わらず、これまではほとんど人が寄ることもなく、整備も不十分で注目されていませんでした。

しかし、2019年9月に日本ロマンチスト協会などが、ロマンスの聖地としてふさわしいと「恋する灯台」に認定。11月には、毎年行われている江崎灯台の一般公開に合わせて、「恋する灯台」にまつわるイベントが開催されました。さらに、地元の企業「うづ志ほ名産店」が、江崎灯台を盛り上げるため新商品を開発。それが、恋する灯台オリジナルパッケージデザインの「ハートインショコラ」です。うづ志ほ名産店の社長・橋本浩さんは「江崎灯台が『恋する灯台』へ認定されたことを聞き、淡路市の誇りになると思った。淡路市での限定発売にはなるが、地域に貢献できればと思っている」と言います。ハートインショコラは、観光施設「のじまスコラ」で購入できます。そして、今後の江崎灯台について、淡路市商工観光課の川口来羽さんは「年齢問わず、多くの方に来てもらいたいと思うが、特に若いカップルに来てもらって、恋人の聖地になって欲しい」と期待を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」
協力：株式会社サンテレビジョン

No.	27	エリア	福岡県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	伝統文化	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1206		



新世代・海女漁師の取り組み～新たなアイデアで海女発祥の地・鐘崎を盛り上げる若き海女漁師～

海女発祥の地と言われている福岡県・鐘崎。鐘崎のあまちゃんの中には、海女漁師としてだけでなく、個性を生かした活動を行っている人もいます。

そのひとりが、愛知県出身の林由佳理さんです。激減する海女漁師の存続のため、2018年に宗像市の地域おこし協力隊として着任しました。そんな林さんは、ウニ殻を使って染め物を制作しています。ウニ漁の時期になると、手や衣服についたウニの色がとれないことに着目し、ウニの殻が染料になるのではと考えました。さらに、ウニ殻を使ってアクセサリーや小物もつくっています。他県からやってきた林さんだけに、地元の漁師とは違った目線で特産物づくりを模索しているのです。林さんは「本当は捨てるウニ殻だが、殻に価値を見出せるといいなと思う。今後は売り出していき、ウニ殻の染め物などが鐘崎の特産品になれば」と語っています。

さらに、もうひとり、地域おこし協力隊として海女漁師になったのが、京都出身の本田藍さんです。本田さんは、有害種のウニ「ガンガゼ」の駆除を行っています。「ガンガゼは海藻を食べてしまい、磯焼けの原因になる。また、海女さんが獲物をとる時、手に刺さってケガをして危ない」と本田さんは言います。そこで、試験的な駆除を進めながら、漁港内の生息を調査し、独自のマップを作成しているのです。

そして、鐘崎出身の海女漁師も新たな展開を模索しています。それが、代々、海女漁師の家系だという正好慶子さんです。正好さんは、鐘崎の海産物で加工製造を展開。そのひとつが、地元の漁師が見向きもしなかった海藻「アカモク」です。素材は、正好さん自身や地元漁師が、素潜りで収穫した新鮮で品質の良いアカモクを使用。さらに、加工でも、鮮度を保つために紫外線殺菌処理をした磁気活性水の海水を使用したり、口当たりが良くなるように2度挽きたりすることで、質の高い製品にしているのです。正好さんは「鐘崎のアカモクのブランド化を目指して頑張っている」と言います。

「鐘崎の海が好き」という正好さん、「海女漁師という生き方がいい」という林さん、そして、本田さんは「恩返しというか、私たちも来た以上、文化を残すために何が出来るかを考えているので、少しでも何か出来たらと思っている」と語っているように、鐘崎の海に魅了されている新世代のあまちゃん達が、鐘崎と海女文化を盛り上げるために奮闘中です。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinふくおか」
協力：RKB毎日放送株式会社

No.	28	エリア	沖縄県	投稿日	2021.02.06
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1209		



ごみでSNS映え & マッチング～沖縄県で若者が進める新しいごみ拾いの仕組み～

ポイ捨てごみをSNSに投稿しているのが、沖縄県で活動しているビーチクリーン団体「Litterati Japan (リテラティ ジャパン)」です。「Litterati」とは、ポイ捨てごみを意味する「Litter」に、芸術の「art」を掛け合わせた造語。その活動は、拾ったごみをオシャレに撮影してSNSに投稿し、ごみ拾いを楽しみながら写真を世界中に発信することでポイ捨て問題を考えるというものです。

その「Litterati Japan」の代表を務めるのが、二宮あみさんです。大学生の時に起ち上げたところ、その活動が各方面から注目を集め、2019年には環境省と日本財団が開催した「海ごみゼロアワード」で環境大臣賞を受賞しました。2019年に大学を卒業し、現在はサンゴに優しい日焼け止めの製造・販売を行うジェルイー合同会社に勤めている二宮さんは、社外活動としてLitterati Japanの活動も行いながら、県内でごみ捨て問題をテーマにした展示会「Seeker」を運営するなど、活躍の場を広げています。そんな中、2020年から新たに始めた取り組みが「プロジェクトマナティ」です。この取り組みは「ごみ拾いのマッチングサービス」で、「マナティパートナー」と呼ばれる事業者と観光客や地元の人をマッチングし、気軽にビーチクリーン活動を行える仕組みです。ごみ拾いをしたい人がパートナーのもとへ行き、マナティバックを500円で購入。そのマナティバックでビーチクリーンを行い、拾ったごみをパートナーに渡すと、適切にごみを処理してくれるというシステムとなっています。パートナーのひとりである「隠れ家カフェ 清ちゃん」のオーナー・島田春奈さんは「ビーチクリーンをやりたい人を活かせる良いプロジェクトだと思う。観光客など県外の人に関しては、沖縄好きでリピーターの人が多い。そういう人達が参加することによって、沖縄の海好きな人同士が繋がる素敵なプロジェクトだとも思う」と語っています。二宮さんは、今後の活動について「明るく楽しく環境や地球のことを考えられるように、プロジェクトマナティやLitterati Japanで、色んな世代の人と一緒に取り組んでいきたい」と意欲を燃やしています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin沖縄県」
協力：琉球放送株式会社

No.	29	エリア	青森県	投稿日	2021.02.16
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1212		



陸奥湾のアマモを守る経営者～日本一減少しているアマモ場の再生に奮闘する志田崇～

海的环境を影で支えているのが、海草「アマモ」です。群生するアマモ場は「海のゆりかご」と呼ばれ、魚たちの生息・産卵場所になっています。さらに、二酸化炭素を吸って酸素を供給、窒素やリンを吸収して海をキレイにするという役割も果たしています。

そのアマモについて、「これからの環境問題に重要な役割を果たす可能性を感じている」と話すのが、志田内海建設株式会社の代表取締役会長で、NPO法人あおもりみなとクラブの理事を務める志田崇さんです。港湾整備を進めていくうちにアマモの重要性を知り、研究・保全活動を2007年から青森県で行っています。

志田さんが保全活動している陸奥湾は、アマモ場の面積が日本一と言われています。その一方で、アマモ場がなくなった面積も日本一です。その消滅原因のひとつが、海底をかき回しながら魚をする「桁曳き網漁」だと言います。そこで、志田さんが開発したのが「竜宮礁（りゅうぐうしょう）」。桁曳き網漁からアマモの地下茎を守るために、コンクリートでつくられたドーム型の魚礁で、ナマコやウニなどの棲みかにもなります。2013年から青森県の公共事業で扱われていて、陸奥湾での設置数は2万個以上だと言います。この竜宮礁で2019年には水産工学論文賞を受賞しました。

さらに現在は、電気を使わずに小さな風力を利用して海水を汲み上げ、アマモの水槽の海水を循環させる実験も行っています。この実験は、アマモの養殖だけではなく、漁港や港湾の融雪にも活用できないかと考えているそうです。

これらの活動の他にも、2021年7月に完成予定の「あおもり駅前ビーチ」にもアマモを移植したり、高校生に移植を指導したりするなど、陸奥湾のアマモ再生に力を入れています。志田さんは「私も色々な先輩から教えられてきて活動を続けているので、次の世代にも継承して、世代間を無くして、みんなで青森県の海を良くしていきたい」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin青森県」
協力：株式会社青森テレビ

No.	30	エリア	山形県	投稿日	2021.02.16
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1217		



バリアフリーの海への第一歩～山形県の「マリ ンパークねずがせき」に設置された常設スロープ～

山形県の海水浴場「マリパークねずがせき」では、以前から障がいを持つ人と持たない人が一緒に楽しめる海づくりを行ってきました。そのひとつが、「バリアフリービーチ大作戦」です。2017年から行われているこのイベントは、海水浴を諦めていた子ども達に、マリアクティビティを体験してもらいながら1日だけの海を楽しんでもらうというもの。参加者の家族が「小学校3年生までは海に連れて来ていたが、成長した後はなかなか連れて来られなかった。イベントに参加してみたら、娘がとてもニコニコしていて嬉しそうだった」と語るほど大盛況となっています。

障がいを持つ人が海を楽しむ際に問題となるのが、車椅子の移動を妨げる「段差」です。そこで、2019年の「バリアフリービーチ大作戦」では、板などを敷いて対応していました。そして、2020年は、バリアのない海の実現を求める声が大きかったことから、海と日本プロジェクトの一環で、常設のスロープがつくられたのです。このスロープは、地球温暖化防止のために、自動車のガラスやバンパーなどの廃材を活用したのものにもなっています。一般社団法人 山形バリアフリー観光ツアーセンターの代表理事・加藤健一さんは「今までは、海に入りたいと思っても、遠くから見守るしかなかった。常設スロープによって、みんなが一緒に楽しめる最高の環境になったと思う」と話しています。また、「バリアフリービーチ大作戦2020」を担当した粕谷修次さんは「障がい者だけではなく、ベビーカーなどを使う若いお母さん達も気軽に浜辺に来られる。スロープがあることで、健常者と障がい者が一緒になって海に親しむことができる。今後こうした形がドンドン増えていくと思う」と話しています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin山形」
協力：株式会社テレビユー山形

No.	31	エリア	滋賀県	投稿日	2021.02.16
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1224		



湖上スポーツの拠点を作りたい～パラローイング団体の代表が琵琶湖で大会を初開催～

パラリンピックの種目にもなっているボート競技「パラローイング」。そのパラローイングにおいて、琵琶湖を拠点に選手育成や普及活動を行っているのが、小原隆史さんです。「初めて生まれた子どもに障がいがあるとわかったが、障がいのある子どもがスポーツをする機会が本当になかった」と話す小原さんは、障がいのある・なしに関わらず、スポーツを楽しむ場をつくりたいという思いから、NPO法人「琵琶湖ローイングCLUB」を2014年に設立しました。

その後、さらに活動を広げようと、2016年から4年間、「海と日本プロジェクト」の助成を受けて、「BIWAKO 湖フェス」を開催。このイベントは、ボートだけではなく、SUPなど様々な湖上スポーツを取り入れ、誰でも気軽に楽しめるものになりました。小原さんは「障がいがある人達だけが集まってスポーツをするのではなく、色んな人を巻き込みたいという想いがあった。その想いを広く発信していきたいと思っていたところ、海と日本プロジェクトに出会って、それまではなんとなくだった夢が、具体的な目標に変わっていった」と語っています。

そして、このイベントがキッカケとなり、たくさんの方がスポーツを楽しむためには「拠点」が必要と考えた小原さんは、地域に根差し、今後も続いていくイベントにしていくために、2020年11月に「びわっ子縁JOYレガッタ2020」を新たに開催しました。このイベントは、これまでのイベントで得た多くの人脈とノウハウをもとに、助成を受けず実施。パラローイングの選手はもちろん、子どもから大人まで約250人が参加し、湖上スポーツを楽しむ人達で大盛況となりました。そんな「びわっ子縁JOYレガッタ2020」は、今回の開催をキッカケに琵琶湖の名物イベントにしたいそう。しかし、このイベントは、拠点づくりの第一歩だと小原さんは言います。「湖上スポーツの普及・大衆化をやりたい。そして、誰もがスポーツを楽しめる場所から誰もが暮らしやすい場所にまで、色んな事業を展開していきたい」と、小原さんは目標を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin滋賀県」
協力：びわ湖放送株式会社

No.	32	エリア	新潟県	投稿日	2021.03.03
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1227		



若手漁師の新たな活動は先生～海と日本プロジェクトをキッカケに芽生えた「海の魅力を伝えたい」～

年々、漁業人口が減少している新潟県。その一方で、奮闘している若手漁師もいます。それが、群馬県出身の黛隼樹さんです。小さい頃に親と川釣りをしていたことから、魚が好きになり、その後、魚に関わる仕事に就きたいと思い、群馬県から近い新潟県糸魚川市にある海洋高校に進学しました。そして、海への憧れと、川とは違う海の生態系に興味を持ち、2015年に漁師となりました。黛さんは新潟県の海で学ぶうちに、「新潟県に愛着がわいた。新潟で漁師をやって、少しでも地域に貢献できたら」と話しています。

現在 漁師となって5年目、23歳の黛さんは、2017年から自分の仕事を考えるようになったと言います。そのキッカケは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」での取材でした。「海は命そのものだから、海を大事にすることやごみを捨てないなどを伝えたい。海を守っていかないといけないというのは、心に入れておきたい」と話す黛さんは、その結果、活動の幅が広がりました。今では、子ども達に漁業の仕事の楽しさや魅力を知ってもらうための活動も行っています。そのひとつが、長岡市立中島小学校での講演会です。児童たちに漁師の仕事の一日の流れを教えたり、網の直し方を体験してもらったりしました。黛さんは、「海の遊びとかを通して、魚を捕るのは楽しいとか、海で働きたいと思ってもらいたい。そして、海は人間にとってどれだけ大事なのかをわかってもらいたい」と、新たな活動の意義を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin新潟」
協力：株式会社新潟放送

No.	33	エリア	長野県	投稿日	2021.03.03
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1231		



学生が「清走中」で海ごみ対策～海なし県・長野の高校生が取り組む海洋ごみ問題～

海なし県・長野で、海洋ごみ問題に取り組んでいるのが、長野県長野高等学校に通う3年生の北村優斗さんです。

幼い頃は東京暮らしだった北村さんは、高校2年生の時、大好きな場所だった神奈川県・江の島海岸を久しぶりに訪れたところ、プラスチックごみだらけだったことに衝撃を受け、海洋ごみ問題に関心を持ったといいます。また、軽井沢町で開催されたG20エネルギー環境問題担当閣僚会合で、先輩が海ごみ問題の発表を行ったことにも刺激を受けました。「海のごみ問題は、深刻化しているため早く解決したい、色んな解決策を探したいという想いがある」と話す北村さんは、2年生の時から通学路のごみを拾うことを日課としています。そして、課題研究ではグループで海洋ごみ問題を研究し発表。さらに、3年生になった2020年5月には、全国の高校生たちとグループワークやイベントなどを行う学生団体「Gomitomo」を設立。7月には、テレビの人気ゲームバラエティ番組「逃走中」とごみ拾いを掛け合わせたイベント「清走中（せいそうちゅう）」を長野市で開催しました。北村さんは「もっと楽しく環境問題を知ってもらえることが、より多くの人に環境問題を知ってもらう手段になるのではと考えた」と開催した意義について話しています。イベントには約100人が参加し、40キロ以上のごみを拾ったそうです。その他にも、論文をまとめ、講演会を行うなど、海洋ごみ問題を解決するために様々な活動を行っているのです。

今後は大学へ進学し、さらに取り組みを深めていく予定だという北村さんは「ポイ捨てがなくならないとプラスチックごみ問題は解決しないので、人間の心理的な部分だとか、行動経済学などの分野から、どうしたらポイ捨てが減るのか実践的な学びをしていきたいと思っている」と抱負を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin長野」

協力：株式会社長野放送

No.	34	エリア	神奈川県	投稿日	2021.03.18
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1234		



海への想いが繋げたビールとピザ～「豊かな海を残したい」との想いが合致した神奈川県の2つの飲食店～

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」では、推進パートナーと共に海をPRしていく試みが全国で行われていて、9,000以上の企業や団体が参加しています（2020年12月時点）。2020年に推進パートナーとなった神奈川県の株式会社 First Dropが運営する飲食店「湘南バルはなたれ The Fish and Oysters」では、「神奈川・湘南の釜揚げしらすピザ」を提供しています。店員の齋田桃子さんは「横須賀市にある佐島でしらす料理を提供している『山茂丸』が捕ってきたふっくらとした釜揚げしらすと、自家製の柚子こしょうオイルとピザソースを使ったコラボピザになっている」と話します。

また、湘南バルはなたれ The Fish and Oystersでは、神奈川県の推進パートナー同士でコラボも実施。それが、「驛（うまや）の食卓」の「海とつなぐビール」です。株式会社横浜ビールの直営店「驛の食卓」では、横浜の水源地である山梨県道志村の湧き水を使ったビールを製造・販売。さらに、ビールに加え、リユースカップとビールと海への想いが描かれたチラシをセットにしたものも販売しています。湘南バルはなたれ The Fish and Oystersは、驛の食卓の海への想いに共感したそうで、齋田さんは「驛の食卓が行っている『ビールを通して何か海に恩返しをしたいという想い』と、私達の『孫の代まで豊かな海を残したい』という生しらすプロジェクトの想いが似ているなと思い、力になれないか、手伝いができないかと思った」と語っています。そこで、湘南バルはなたれ The Fish and Oystersでは、「海とつなぐビール」を仕入れ、ピザと一緒に提供中です。このコラボに、株式会社横浜ビールの広報・ファンプロジェクトGMの横内勇人さんは「ぜひ海とつなぐビールを通して、一緒に取り組んでいきましょう」と、齋田さんにメッセージを送りました。

今後も海と日本プロジェクトが架け橋となり、素敵なコラボが誕生するかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinかながわ」

協力：株式会社テレビ神奈川

No.	35	エリア	鳥取県	投稿日	2021.03.18
カテゴリー	海の体験機会づくり	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1240		



鳥取発！広がる「すなばスポーツ」～すなばスポーツで鳥取県を日本一ワクワクする「すなば県」に～

鳥取県の砂丘や海岸といった「すなば」で活動している団体が、「すなばスポーツ」です。ビーチサッカー、ビーチテニス、ビーチヨガ、鳥取県の伝統的な踊り「しゃんしゃん傘踊り」など、多くの体験型のアクティビティを手掛けています。代表の岸本雄司さんは「砂の上でスポーツをしていくことで、鳥取を盛り上げていきたい、発信していきたい思い、すなばスポーツを立ち上げた」と設立のキッカケを語っています。また、スポーツなどのアクティビティだけでなく、海岸清掃も定期的に行っています。

2015年4月の設立から着実に広がっているそうで、「色々な方達に知名度をあげてもらい、鳥取の街の中で活動が広がってきた。そして、全国にも発信できるようになってきた。それにより、鳥取に移住してくれる方がいたり、鳥取からビーチスポーツで上を目指していくような人が出てきた」と岸本さんは言います。ただ、活動は鳥取県東部が中心でした。そこで、近年では、鳥取県全域に広げる動きも始めています。そのひとつが、常設コートの「境港ジャンクルジム」です。すなばスポーツに魅力を感じ、2020年6月に沖縄県から移住してきた辻昌宏さんが、岸本さんと一緒に企画しました。辻さんは「西部での境港ジャンクルジムが始まったことで、鳥取県全体に広がりつつあると感じている」と話します。境港ジャンクルジムは、2021年3月からビーチスポーツが再開される予定です。

さらなる広がりを見せる「すなばスポーツ」の今後について、岸本さんは「鳥取県にはキレイな海や自然があるので、それを利用して、日本一ワクワクする“すなば”の県にしていきたい」と意気込みを語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinとっとり」
協力：日本海テレビジョン放送株式会社

No.	36	エリア	香川県	投稿日	2021.03.18
カテゴリー	海ごみ	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1242		



児童が選んだ学習テーマは海ごみ～ビーチクリーンにも参加して学んだ香川県の高松小学校～

香川大学教育学部附属高松小学校では、1年生から6年生までのグループをひとつのクラスにして活動する「縦割り創造活動」が行われています。2020年度の活動のテーマのひとつとして取り上げたのが、「海洋ごみ」です。山田旅生教諭は「今回のプロジェクトは子ども達の発言から始まった。子ども達が社会に役立つものとして、海のごみの問題を取り上げてきた」と言います。2019年7月14日に庵治町で実施された「第26回水ぎわクリーン作戦」に参加した児童が、海洋ごみ問題に関心を持ち、学習テーマとして選んだそうです。

活動では、豊かな海を目指し活動を行っている「里海コンシェルジュ」を学校に招き、海洋ごみの現状を学習。さらに、日本財団と環境省が共同で定めた「秋の海ごみゼロウィーク」の期間中、鎌野海水浴場での清掃にも参加しました。浜辺の清掃を行った児童は「色々なゴミが落ちていて、魚たちが可哀想だと思った」、「ポイ捨てをせずに、しっかり分別してゴミを捨てていきたいと思った」と語っているように、体験からの学びが多かったようです。そして、約1か月・16回の活動を経て、発表会を実施。それぞれのグループは、ペットボトルが最も多かったという「海ごみランキング」や「海ごみは陸から来たごみが約8割」など、体験したり調べたりしたことを発表しました。その後も、グループ毎に話し合うなど、海洋ごみ問題への意識を高めていきました。山田教諭は「子ども達が主体となって、ごみの問題について親身に関わっていた。色々な方法で発表する子どもの姿を見て、たくさんの人に自分たちの想いや考えが発信できるようになってくれたらと思う」と活動の意義を話しています。また、児童は「自分から積極的に地域のゴミを拾うようにしたい」と、活動を経て意識が変わったと語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinかがわ」

協力：西日本放送株式会社

No.	37	エリア	熊本県	投稿日	2021.03.18
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1244		



18年以上続く芦北高校の挑戦～豊かな海にするため熊本県・芦北湾のアマモ場を再生へ～

熊本県の芦北高校の生徒たちは、芦北湾での「アマモ場づくり」を2002年から行っています。海草「アマモ」が群生するアマモ場は、海の生き物たちの生息場所となる重要な存在です。かつての芦北湾には広大なアマモ場があり、環境省の自然環境保全基礎調査によると、1978年には13haあったそうです。しかし、山からの土砂の流入や海辺の開発など複合的な要因が重なり、1989年前後にほぼ消失したと言われ、現在もヘドロが残る海域があります。

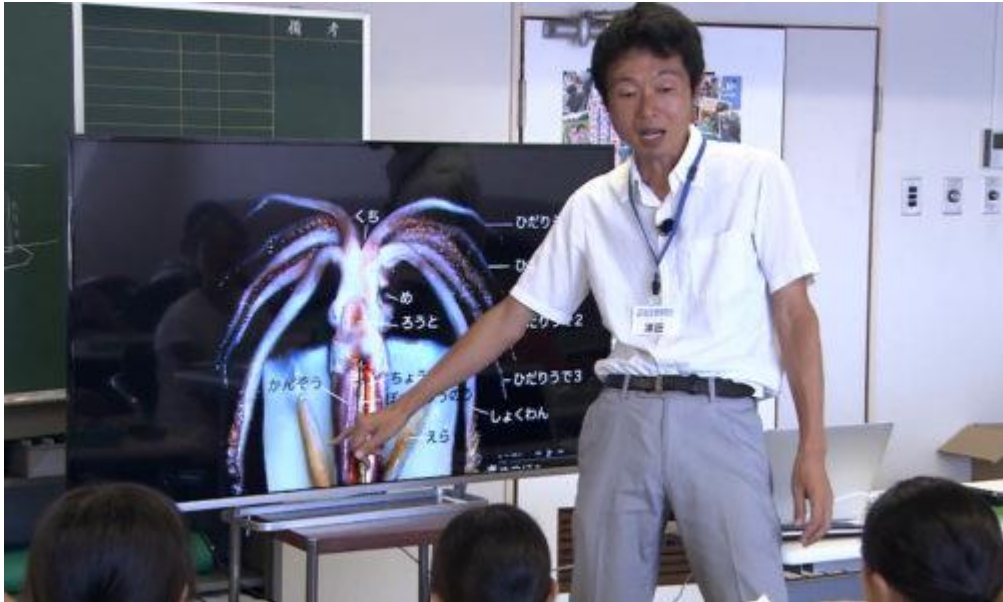
そこで、生徒たちはアマモ場を再生させるため、林業技術を応用した「ロープ式下種更新法」という独自の方法で、活動を始めた当初の30倍にもなる7.5haにまで拡大させてきました。そして、その成果である「ヘドロ海域でのアマモの育成」について、海・水産分野・水環境に関わる研究を行う中高生を応援する「マリンチャレンジプログラム2019九州・沖縄大会」で発表。結果、優秀賞を受賞しました。その後も、専門家からのアドバイスを参考に研究活動を進めていたところ、2020年1月、アマモを5本以上の束にして移植すると生存率が上がることを発見し、さらなる実験を重ねていたところでした。

しかし、7月の豪雨災害で土砂が海に流入。その結果、アマモ場が壊滅的な状態になってしまいました。11月、豪雨後のアマモ場を生徒たちが初めて訪れみると、「ひざ上ぐらいまでヘドロのぬかるみがきたので、とてもビックリした」と語るほど、広範囲にヘドロ化した土砂が堆積。芦北高校・林業科の前島教諭は「微かな期待でアマモの生存確認ができないかと思って行ったが、全く生存確認できなかった。大変ショックだった」と語っています。

しかし、生徒たちは今、マリンチャレンジプログラムでの研究を応用し、新たな取り組みに挑戦しています。ヘドロでの苗づくりを行うなど、先輩から受け継いだ研究をさらに進化させているのです。芦北高校・アマモ班リーダーの橋本魁翔さんは「発見したアマモを5本以上の束にして移植する群集効果などを活用し、『海のゆりかご』とも言われるアマモ場を復活させて、豊かな海にしていきたいと思っている」と意欲を燃やしています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinくまもと」
協力：熊本朝日放送株式会社

No.	38	エリア	石川県	投稿日	2021.03.29
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1247		

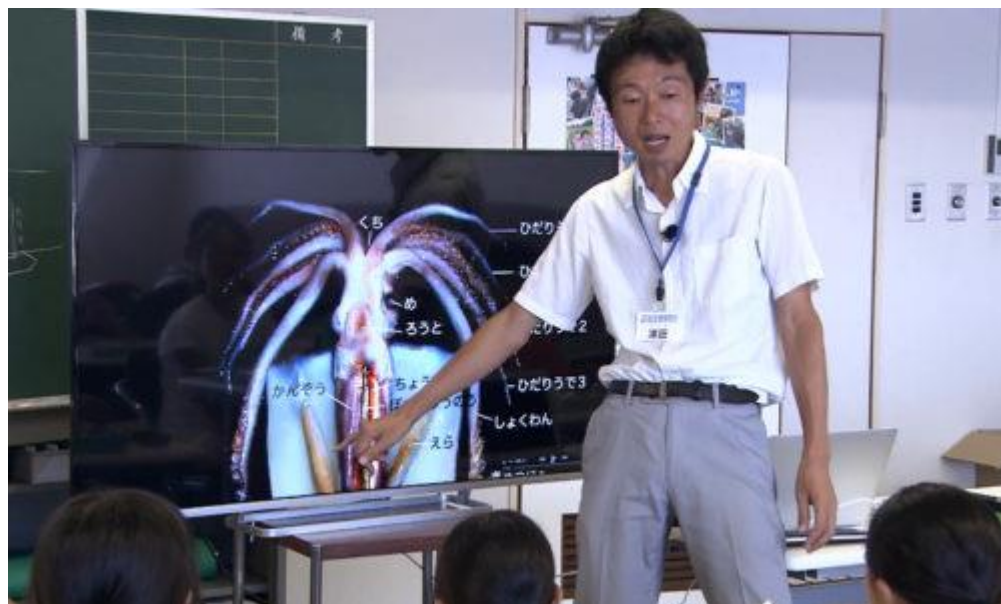


石川県で広がる「海の学び」～海を未来へと引き継ぐ者たち①「海と日本プロジェクトinいしかわ」と「能登里海教育研究所の浦田慎」～

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクトin いしかわ」（石川県）では、海に携わる人への取材、奥能登の海と恵みを泊まり込みで学ぶツアー、海を学ぶオンラインイベントなどを実施しています。「海の学びや海で起きている問題点といった要素を必ず盛り込むようにしている」と話すのは、海と日本プロジェクトin石川県実行委員会を率いる石川テレビ放送の奥名恭明さんです。奥名さんは取材を通じて“あること”に気づいたようで、「『能登小木港 イカす会』を2016年5月下旬に取材した際、小木小学校の児童たちがイカの解剖を行っていた。海は、おいしい、楽しいだけじゃないと、海プロの最初の取材で思い知らされた」と言います。能登町にある小木小学校は、全国でここだけという海洋教育・里海科で、海に携わる様々な人達を招き、授業を行っています。「海と日本プロジェクトin いしかわ」では、その里海科をモデルとして、活動の中に「海の学び」を組み込んでいるのです。「海プロの活動を通じて、海の問題の見方が変わっていくのを感じている。海はただ楽しいだけではない、それが石川県での活動の根幹」と奥名さんは語っています。

その活動に大きな影響を与えた1人が、能登里海教育研究所の主幹研究員・浦田慎さんです。この研究所は、小木小学校の里海科カリキュラムを支援するために、2015年から活動を開始。「里海教育とは、海の仕組みについて興味を持って調べようではなく、人間が海にどう関わっているかという人間の暮らしやこれからの未来、人間生活のあり方まで含めた教育カリキュラム」と話す浦田さんは現在、小木小学校だけではなく、能登町を中心に、様々な形で海の学びをサポートしています。そして、最も力を入れているのが、海洋ごみ問題です。「子ども達が大人になった時、彼らが海洋ごみ問題解決のための力になってもらわないといけない。そのための教育活動・教育支援活動は一番優先されるものだと思っている。その活動では、子ども達を連れて海岸へごみ拾いに行くといった内容は、基本的に行っていない。海洋ごみ問題の本質は、例えば、プラスチックがなぜ問題なのかというように、それぞれメカニズムがある。そのため、仕組みを理解して、リスクを評価し、新たな解決策をつくれる、そういう人材が20年後に出てこないといけない」と活動の意義について語っています。そこで、学校に協力してもらい、社会の授業の一環として海洋ごみ問題が学べるように、地理の授業の後、海洋ごみの漂流・漂着を予測できるシミュレーターを使った学習などを行っているそうです。

No.	38	エリア	石川県	投稿日	2021.03.29
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1247		



浦田さんは今後について、「海洋教育の一環として『PCRとウイルスの不思議』という講演を2019年に行ったように、新しいバイオテクノロジーのテクニックなどは積極的に海洋教育に取り入れていきたい。また、海沿いじゃない学校に、海洋教育の魅力や価値を伝えていくことも積極的にやっていければと思っている」と、海の学びを深めていきたいと話しています。

また、「海と日本プロジェクト in いしかわ」も、海の学びを広めていきたいと言います。奥名さんは「例えば、石川県で唯一の鍛冶屋「ふくべ鍛冶」は、色んな刃物をつくっているが、オーダメイドの漁具もつくっているように、石川県には海との繋がりを持った方が大勢いる。その方達を子ども達に会わせるというように、ネットワーク・人脈を活用して多彩な海洋教育を海プロの活動としてやりたい」と、今後の抱負を語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」
協力：石川テレビ放送株式会社

No.	39	エリア	北海道	投稿日	2021.03.29
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1252		



子ども達に北海道の海の魅力を～海を未来へと引き継ぐ者たち②「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」と「オホーツクタワー・村井克詞」～

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。人と海をガッチャンコして、海と共生するムーブメントを起こすことを目的に活動している「海と日本プロジェクト in ガッチャンコ北海道」では、海に携わる人への取材やオリジナルイベントなどを実施。イベントでは、北海道内の小学生を対象に、サマーキャンプのような形式で、昆布やホタテなど北海道ならではの海を学ぶ内容を行っています。その中で、最も印象に残っているのは「参加する子ども達」だと、ガッチャンコ北海道の実行委員を務める北海道放送の山崎直樹さんは言います。「子どもの海離れが叫ばれているが、海に入って実際に体験した瞬間に笑顔になる」と振り返っています。そのイベントでは、子ども達に楽しく学んでもらうために講師を招いていますが、山崎さんによると「これまで取り上げてきた取材対象者にイベントをサポートしてもらっている」と言います。

そのサポーターのひとりが、オホーツクタワーの研究員・村井克詞さんです。紋別市にあるオホーツクタワーは、世界初の氷海海中展望塔で、観光と研究という2つの性格を持ちます。観光では、迫力満点の4Dシアターやオホーツクの生き物の展示などが行われ、また、水深7.5mの世界も見ることができます。研究では、毎朝、海洋観測器を水深10mまで下ろし、水温・塩分・酸素量などを25年間記録し続けています。村井さんは、そういった活動を行いつつ、今後は新たに海体験の機会を増やしていきたいそうで、「最近の子ども達は、なかなか海に親しむ機会がないと感じている。そこで、紋別の“紋”に“キッズ”をかけた“モンキッズ”を企画している。オホーツクタワーはもちろん、ホワイトビーチという人工海浜、ガリソ号という他にはない船を持っているという強みもあるため、総合的な体験メニューを開発できると考えている。それによって、紋別で学んだり、環境の意識を深めたりという取り組みを提供したい」と抱負を語っています。そして、その体験を通して、紋別の海を知ってほしいと言います。「紋別の海は、北半球で凍る海としては南限の海で、流氷の好感度センサーでもあり、温暖化の好感度センサーでもある。この海が凍らなくなるというのは、地球環境において重要なインパクトになるため、この海が凍ることも大切だということに気づいてもらいたい」。

また、ガッチャンコ北海道も、海に関わる人達と共に、新たな活動に取り組もうとしています。山崎さんは「北海道は、日本海、オホーツク海、太平洋と3つの海があるが、北海道民でもそれぞれの海を見たことがない人が多くいると思う。また、知らないこともたくさんあると思う。私自身も『鮭は白身』だと最近初めて知った。そこで、私達の情報発信を通して追体験してもらいたい。また、海に携わる方を多く取材してきたので、今後は水族館のような施設とコラボして、そういった方々の話を一か所で聞いたり体験できるような常設の取り組みを実現させたいと考えている」と、さらなる活動に意欲を燃やしています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」
協力：北海道放送株式会社

No.	40	エリア	兵庫県	投稿日	2021.03.29
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1254		



兵庫 キレイで豊かな海づくりを～海を未来へと引き継ぐ者たち③「海と日本プロジェクトinひょうご」と「うみぞら映画祭の大継康高」～

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクト in ひょうご」（兵庫県）では、活動の1つとして「豊かな海」について学ぶ取り組みを行っています。「ただキレイなだけでなく、魚たちが住みよい環境をつくっていく必要がある」と話すのは、「海と日本プロジェクト in ひょうご」で活動を行っているサンテレビジョンの常本大貴さんです。瀬戸内海では今、海藻の成長などに必要な成分「栄養塩」が少ない「貧栄養化」という問題が起こっていると言います。その結果、漁獲量の減少や海苔の色落ちが起きているそうです。そこで、海プロジェクトinひょうごでは、「豊かな海を守ろう！」というテーマで、明石市の海苔について学ぶオリジナルイベントなどを実施。子ども達が体験や座学から「豊かな海とは？」「豊かな海を実現するためにはどうしたらいいか？」などを学ぶ内容となっています。

一方で、キレイな海づくりにも積極的に取り組んでいて、常本さんは「豊かな海を守るためには、街からプラスチックのごみなどが海に流れ着かないように、ごみ拾いをするというのが非常に重要だと考えている」と話します。そこで、2019年からは、海と日本プロジェクトの一環で、海洋ごみ削減に取り組むプロジェクト「CHANGE FOR THE BLUE」に参加し、「ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団」として淡路島と神戸市を中心に海洋ごみ削減の活動を行っています。

No.	40	エリア	兵庫県	投稿日	2021.03.29
カテゴリー	生態系	URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1254		



活動では様々なイベントと連携していて、その1つが「うみぞら映画祭」です。うみぞら映画祭とは、海の上に400インチ以上の巨大スクリーンを吊るし、砂浜から映画を観るというイベントで、大浜海水浴場で2016年から行われています。このイベントを企画・開催している株式会社海空の代表取締役社長・大継康高さんは「海浴いでポーっとしながら癒されたりとか楽しんだりできるイベントをやりたい。そういう空間があれば、淡路島を気に入ってもらえるのではないかと思った」と始めたキッカケについて語っています。世界的にも珍しいこの映画祭は、近年は県外からも人が訪れるほど大盛況ですが、始めた当初は中止を求める声もあったと言います。大継さんは「海でのイベントは、人が集まるとごみが増えると困るからやめてくれという声もあった」と振り返ります。そのため、イベントの前後で海岸清掃も行っていました。その海岸清掃が結びつき、2019年からは、「ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団」と連携して清掃活動を行うようになったのです。ひょうご瀬戸内ごみゼロ青年団の実行委員でもある大継さんは「周りから『ごみ拾い活動もしっかりやってくれてありがとう』という声も頂くようになったので、海をキレイにしていく、色んな方に海洋ごみ問題を伝えていく活動はしなくてははいけないという意識になった」と語っています。大継さんは現在、洲本市と連携した取り組み「護海（ごみ）袋プロジェクト」、淡路島の飲食店50店舗と連携した「できるだけ紙対応プロジェクト」など、海洋ごみ問題解決のための活動をさらに広げています。「うみぞら映画祭で癒されて欲しいと思っても、海が汚いと癒されない。海をキレイにして、海で癒される時間をつくってほしい」と、大継さんは今後の活動への意欲を燃やしています。

そして、「海と日本プロジェクト in ひょうご」も活動を広げていきたいと言います。常本さんは、「私たち、そして、子ども達が、豊かな海を未来に繋ぐことができると考えている。今までのイベントは瀬戸内海のみだったが、兵庫県は瀬戸内海と日本海に渡っているため、日本海でも豊かな海という考え方を子ども達に学んでもらい、広げていきたい」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」
協力：株式会社サンテレビジョン

3 ヤフー記事掲載

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
1	2020.04.01	福岡県	地域	密着！最新水族館のお仕事～地元・福岡県民も知らない大切な取り組みとは？～
2	2020.04.02	宮崎県	地域	サンゴの世界的権威が新発見～宮崎県・日南海岸の海中に広がる世界でたった一つの豊かな森～サンゴの世界的権威が新発見
3	2020.04.03	熊本県	地域	官民一体で漂流ごみ回収大作戦～熊本県天草市牛深町～
4	2020.04.05	全国	地域	新型コロナウイルス感染症対策で計1万床目指す～日本財団が感染者のために品川区とつくば市の所有地を提供～
5	2020.05.17	全国	地域	中高生がオンラインプレゼン～マリンチャレンジプログラム2019全国大会～
6	2020.05.27	全国	地域	コロナ対策で50億円の支援～日本財団が“第2波”と“複合災害”に備えて救命救急医療を支援～
7	2020.06.17	全国	地域	無人運航船で世界初の実証実験～年間1兆円の経済効果が期待できる新プロジェクトを日本財団が支援～
8	2020.07.05	全国	ライフ	コロナ禍こそ水辺のそなえを～第1回:ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方～
9	2020.08.05	全国	ライフ	異業種が連携して海ごみ対策～包装材メーカーから文房具の企業まで「ALLIANCE FOR THE BLUE」～
10	2020.08.18	全国	ライフ	コスプレ×海ごみ アワード決定～28か国のコスプレイヤーが海洋ごみ対策
11	2020.08.22	全国	ライフ	海の安全を守るポツンと海の家～片瀬東浜海岸に建設された“釘のない海の家”～
12	2020.09.12	全国	ライフ	小泉環境相もコスプレイヤーとごみ拾い～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク」開始～
13	2020.09.17	全国	ライフ	Jチームが海ごみで最優秀賞～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」～
14	2020.09.21	全国	ライフ	旬のエビで巨匠がロスなし料理～海洋ごみ問題とフードロスを考える「エビフェス」～
15	2020.10.10	全国	ライフ	育てたヒラメを最後どうする？～小学校で海の魚を養殖する「陸養プロジェクト」～
16	2020.10.11	全国	ライフ	厳選グルメから食と海を考える～29県の絶品海グルメを販売「全国海の贈り物フェア2020」～
17	2020.10.14	全国	ライフ	30年後は海のご馳走が無い？～サンマにあんこうなどの魚を食べて海を考える「海のごちそうウィーク」～
18	2020.10.31	全国	ライフ	Go To 灯台！～全国各地で灯台の一般公開などを行う「海と灯台ウィーク」～
19	2020.11.14	全国	ライフ	全国を巡る2人の海の繋ぎ手～東西から日本各地の海の魅力や課題を発信していく熱源キャラバン～
20	2020.11.21	全国	ライフ	コロナ禍と全国の水辺の事故～減少した救助出動件数の裏には海の安全を守る人達の活動が！？～

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
21	2020.12.05	全国	ライフ	コロナ禍でも高校生が熱闘！～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定！スポGOMI甲子園～
22	2020.12.05	全国	ライフ	全国の熱源を2か月巡りゴール～2021年の熱源サミットに向け新たな展開「熱源プロジェクト」～
23	2020.12.26	全国	ライフ	水族館からのオンライン授業～オンライン謎解き「海なぞ水族館」に先駆けて行われた海洋問題の授業～
24	2020.12.29	全国	ライフ	院内学級の生徒が海中体験！～Virtual Ocean Projectが実施したオンライン授業「水中ドローン×VR」～
25	2021.01.22	全国	ライフ	介護スタッフに無料PCR検査～約10万人が毎週1回を目安に日本財団が実施へ～
26	2021.02.07	長崎県	ライフ	海のクイズ王で学校のヒーローに～クイズ王・古川プロデュース「子ども海のクイズ王プロジェクト」～
27	2021.02.13	石川県	ライフ	大麦ストロー製品化から1年～アサヒビールと協力、高校生が賛同と広がるプラごみ削減～
28	2021.02.14	三重県	ライフ	学生が海の生き物ロボで授業～地元・三重県のスズキやイルカをリアルに再現したロボットで環境教育活動～
29	2021.02.20	兵庫県	ライフ	日本最古級の灯台に脚光！～「恋する灯台」認定で盛り上がる淡路島の江崎灯台～
30	2021.02.21	福岡県	ライフ	新世代・海女漁師の取り組み～新たなアイデアで海女発祥の地・鐘崎を盛り上げる若き海女漁師～
31	2021.02.27	沖縄県	ライフ	ごみでSNS映え&マッチング～沖縄県で若者が進める新しいごみ拾いの仕組み～
32	2021.02.28	青森県	ライフ	陸奥湾のアマモを守る経営者～日本一減少しているアマモ場の再生に奮闘する志田崇～
33	2021.03.06	山形県	ライフ	バリアフリーの海への第一歩～山形県の「マリパークねずがせき」に設置された常設スロープ～
34	2021.03.07	滋賀県	ライフ	湖上スポーツの拠点を作りたい～パラローイング団体の代表が琵琶湖で大会を初開催～
35	2021.03.13	新潟県	ライフ	若手漁師の新たな活動は先生～海と日本プロジェクトをキッカケに芽生えた「海の魅力を伝えたい」～
36	2021.03.14	長野県	ライフ	学生が「清走中」で海ごみ対策～海なし県・長野の高校生が取り組む海洋ごみ問題～
37	2021.03.20	神奈川県	ライフ	海への想いが繋げたビールとピザ～「豊かな海を残したい」との想いが合致した神奈川県の2つの飲食店～
38	2021.03.20	鳥取県	ライフ	鳥取発！広がる「すなばスポーツ」～すなばスポーツで鳥取県を日本一ワクワクする「すなば県」に～
39	2021.03.21	香川県	ライフ	児童が選んだ学習テーマは海ごみ～ビーチクリーンにも参加して学んだ香川県の高松小学校～
40	2021.03.21	熊本県	ライフ	18年以上続く芦北高校の挑戦～豊かな海にするため熊本県・芦北湾のアマモ場を再生へ～

No.	日時	エリア	カテゴリ	タイトル
41	2021.03.30	石川県	ライフ	石川県で広がる「海の学び」～海を未来へと引き継ぐ者たち① 「海と日本プロジェクトinいしかわ」と「能登里海教育研究所の 浦田慎」～
42	2021.03.30	北海道	ライフ	子ども達に北海道の海の魅力を～海を未来へと引き継ぐ者たち ②「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」と「オホーツクタ ワー・村井克詞」～
43	2021.03.30	兵庫県	ライフ	兵庫 キレイで豊かな海づくりを～海を未来へと引き継ぐ者たち ③「海と日本プロジェクトinひょうご」と「うみぞら映画祭の大継康 高」～

No.	1	エリア	福岡県	配信日	2020.04.01
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3238e481cb1415d23a10f9f1d42b7cafe3255c4d		

YAHOO! ニュース
JAPAN

IDでもっと便利に新規取得
ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

密着！最新水族館のお仕事～地元・福岡県民も知らない大切な取り組みとは？～

4/1(水) 19:00 配信

SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS

密着！最新水族館のお仕事～地元・福岡県民も知らない大切な取り組みとは？～



日本財団「海と日本プロジェクトinふくおか」

「マリンワールド海の中道」は、福岡県福岡市東区にある水族館です。2017年に

No.	2	エリア	宮崎県	配信日	2020.04.02
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/b26271311396d023881d115bfe1ec9bd8c5fdebb		

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

サンゴの世界的権威が新発見～宮崎県・日南海岸の海中に広がる世界でたった一つの豊かな森～サンゴの世界的権威が新発見

4/2(木) 19:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクトinみやざき」

宮崎県の日南海岸国立公園。

その公園の本土周辺には、100種類以上のサンゴが生息している。

No.	3	エリア	熊本県	配信日	2020.04.03
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/7f36d4ea8aaed817b395857a5a2b2e2321a4d8d2		

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

官民一体で漂流ごみ回収大作戦～熊本県天草市牛深町～

4/3(金) 19:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクトinくまもと」

マダイやブリなどの養殖が盛んな熊本県の牛深地域。しかし、流木などの漂流ごみが養殖イカダの網を傷めたり、船のスクリューを壊したりしている。天草市牛深地

No.	4	エリア	全国	配信日	2020.04.05
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2677b65257a2ce8cb6347e6a9817bbd1c424e8f8		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

新型コロナウイルス感染症対策で計1万床目指す～日本財団が感染者のために品川区とつくば市の所有地を提供～

4/5(日) 9:30 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月3日、日本財団が独自の施策を発表した。日本財団によると、東京都品川区にある関連団体が運営する「船の科学館」の

No.	5	エリア	全国	配信日	2020.05.17
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/43fdb19ed6b127b017a6fc44b452133918d571a9		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



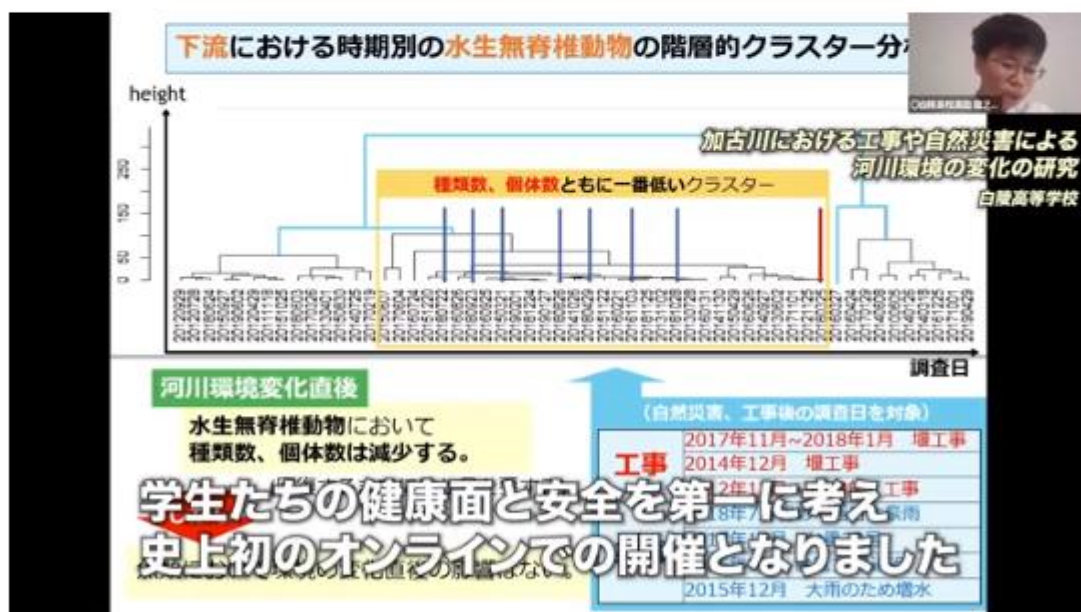
トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

中高生がオンラインプレゼン～マリンチャレンジプログラム2019全国大会～

5/17(日) 12:00 配信

Social Innovation News



日本財団「海と日本プロジェクト」

「マリンチャレンジプログラム2019全国大会～海と日本PROJECT～」が、2020年4月19日に東京で行われました。マリンチャレンジプログラムは、「海と日本プロ

No.	6	エリア	全国	配信日	2020.05.27
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/499ba2edc39f36c74545e5dfddd2198a83c19bb9		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力



トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

コロナ対策で50億円の支援～日本財団が“第2波”と“複合災害”に備えて救命救急医療を支援～

5/27(水) 13:00 配信



いま救命救急医療が危機的な状態

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団は、新型コロナウイルス対策として救命救急医療の支援を行うと、2020年5月26日に発表した。支援対象は全国に139ある「救急指導医指定施設」。その目

No.	7	エリア	全国	配信日	2020.06.17
カテゴリー	地域	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ba495c4a0a1fc68f895d6803d269e8e319d791a4		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン マイナポイントとは

キーワードを入力


トップ 速報 映像 個人 特集 みんなの意見 ランキング 有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

無人運航船で世界初の実証実験～年間1兆円の経済効果が期待できる新プロジェクトを日本財団が支援～

6/17(水) 12:00 配信

Social Innovation NEWS



来年には5つのコンソーシアムで
それぞれの無人運航船の実証実験をやってもらう

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団は無人運航船の実証実験を始めると、2020年6月12日に発表した。実証実験を行うのは、5つのコンソーシアム（複数の民間企業体）で、海運や造船、ITな

No.	8	エリア	全国	配信日	2020.07.05
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3d76065722273a97dd85a5879bc86d7037ae0935		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



10/1以降の旅行GoToで最大50%お得

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

特集

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

コロナ禍こそ水辺のそなえを～第1回：ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方～

7/5(日) 12:00 配信 0



**ライフセーバーの立場でこれ怖いな
風が変わったから気をつけようと思うのは**

日本財団「海と日本プロジェクト」

2020の夏は、新型コロナウイルスの影響で、開設されない海水浴場やライフセーバーが常駐しない海があります。そのため、水辺の事故が増える恐れがあります。そ

No.	9	エリア	全国	配信日	2020.08.05
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9205cec7f3ffac6d669e2e49b3cfbdc7b9543b4a		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 10/1以降の旅行GoToで最大50%お得



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [特集](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地](#)

異業種が連携して海ごみ対策～包装材メーカーから文房具の企業まで協働する「ALLIANCE FOR THE BLUE」～

8/5(水) 12:00 配信 1



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団が「ALLIANCE FOR THE BLUE」(アライアンス・フォー・ザ・ブルー)を設立

日本財団「海と日本プロジェクト」

レジ袋の有料化が始まり、海洋ごみへの関心が高まる中、日本財団が「アライアンス・フォー・ザ・ブルー (ALLIANCE FOR THE BLUE)」の設立を、2020年7月29日に発表した。この組織は、様々な業種や業界が連携し、新たな海洋ごみの発生防止やすでに発生した海洋ごみの削減を目的としたもの。

No.	10	エリア	全国	配信日	2020.08.18
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a05a039213ca2529e2212e0abe0f2cf562dbaa2c		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 📁 10/1以降の旅行GoToで最大50%お得



トップ 速報 ライブ 個人 特集 みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ

コスプレ×海ごみ アワード決定～28か国のコスプレイヤーが海洋ごみ対策～

8/18(火) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

「世界コスプレサミット 2020 ONLINE」にて、「コスプレde海ごみゼロアワード」が8月2日に開催されました。このアワードは、海洋ごみ問題の周知啓発や削減を行っているコスプレイヤーに活動実施を呼びかけ、優れた取り組みを世界中から募集・発掘して広めるもので、日本財団と世界コスプレサミット実行委員会が共同で開催。『進撃の巨人』に登場するキャラクターのエルヴィン・スミスに扮してプ

No.	11	エリア	全国	配信日	2020.08.22
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/4f8d23336c8fe7c0c703c3002b4326d188e0aefb		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 10/1以降の旅行GoToで最大50%お得


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[特集](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)

海の安全を守るポツンと海の家～片瀬東浜海岸に建設された“釘のない海の家”～

8/22(土) 12:00 配信 4



日本財団「海と日本プロジェクト」

2020年の夏は、新型コロナウイルスの影響で、開設されない海水浴場やライフセーバーが常駐しない海があります。そのため、水辺の事故が増える恐れがあります。そこで、水辺の事故を防ぐために必要なことや実施している取り組みなどを専門家に聞いていきます。第2回目は、「NPO法人 海さくら」の理事長・古澤純一郎さんです。

No.	12	エリア	全国	配信日	2020.09.12
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/5a48f5e549632f784af3a2e6d26c4b1b9b89b5cd		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 10/1以降の旅行GoToで最大50%お得


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[特集](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[有](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地](#)

小泉環境相もコスプレイヤーとごみ拾い～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク」開始～

9/12(土) 15:05 配信 8



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京タワー周辺にて清掃活動を行う「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!」が2020年9月12日に行われました。このイベントは、日本財団と環境省による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロウィーク」のキックオフイベントとして開催。この清掃キャンペーンは、海洋ごみ問題の周知啓発と、ごみの海への流出を少しでも防ぐことが目的となっています。

No.	13	エリア	全国	配信日	2020.09.17
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3ffc02ce9e405d5fa7fc1799901efbbfad698f80		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



10/1以降の旅行GoToで最大50%お得

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地

Jチームが海ごみで最優秀賞～日本財団と環境省が主催する「海ごみゼロアワード」～

9/17(木) 12:00 配信 0



**海洋ごみ対策において
国内の優れた取り組みを発掘し**

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団と環境省が共同実施している「海ごみゼロアワード」の表彰式が、2020年9月14日に行われた。海ごみゼロアワードは、海洋ごみ対策において、国内の優れた取り組みを発掘し、広く発信することが目的で、今回は2019年に続き2度目の開

No.	14	エリア	全国	配信日	2020.09.21
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/cb70db6f55bc58e41c763761402ef1a013d6275b		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ZOZOTOWNでお得なセール開催中



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [特集](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地](#)

▶ **速報** 田中将大投手（32）8年ぶり楽天復帰 背番号は「18」 たった今

旬のエビで巨匠がロスなし料理～海洋ごみ問題とフードロスを考える「エビフェス」～

2020/9/21(月) 10:00 配信  1



日本財団「海と日本プロジェクト」

秋が旬のエビ。そんなエビは長寿と健康の象徴とされることから、敬老の日は「海老の日」でもあります。そんな海老の日を前に、一般社団法人日本海老協会による「エビフェス オンライン2020」が9月19日に行われました。このイベントは、日

No.	15	エリア	全国	配信日	2020.10.10
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e99a6a3cf50e3145f870b5cc1d52d99ce772312c		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



23日までペイペイモールファッション祭開催

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

育てたヒラメを最後どうする？～小学校で海の魚を養殖する「陸養プロジェクト」～

2020/10/10(土) 12:00 配信 8



Social Innovation News



これは「陸養プロジェクト」

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京都台東区にある東浅草小学校で、「陸養プロジェクト」の受け入れ式が9月30日に行われました。2020年度で3年目となった陸養プロジェクトは、日本財団による「海と日本プロジェクト」の一環として、小学校で海の魚を養殖し、海の恵みと命の大切さを考えるという取り組みです。今年は東浅草小学校の他、4つの小学校でヒラメの養殖が実施さ

No.	16	エリア	全国	配信日	2020.10.11
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/cbe39d0f6b76899be529c5f48b2029ade98b2507		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



【おトク】突然ですが、クーポン配布します

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

速報 橋本聖子新会長 記者団にコメント 1分前

厳選グルメから食と海を考える～29県の絶品海グルメを販売「全国海の贈り物フェア2020」～

2020/10/11(日) 13:10 配信 0



Social Innovation News



日本財団「海と日本プロジェクト」

新宿タカシマヤタイムズスクエアにて、「全国海の贈り物フェア2020」が、10月3日と4日に開催されました。昨年に引き続き開催されたこのイベントは、「食育」がテーマのひ

No.	17	エリア	全国	配信日	2020.10.14
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/31c299de7670b8a8449804a2217933f43845d710		

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 23日までペイペイモールファッション祭開催



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

速報 橋本聖子新会長 記者団にコメント 5分前

30年後は海のご馳走が無い? ~サンマにあんこうなどの魚を食べて海を考える「海のごちそうウィーク」~

2020/10/14(水) 13:10 配信 1

SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

「海のごちそうウィーク」が、10月10日の魚（とと）の日から16日まで開催中です。このイベントは、「海のごちそうを食べる」ことを通じて海のことを知って考えるというも

No.	18	エリア	全国	配信日	2020.10.31
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/755de2a1b5cd6a4ffd4bb8dceb9365d673ca38b		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



23日までペイペイモールファッション祭開催

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

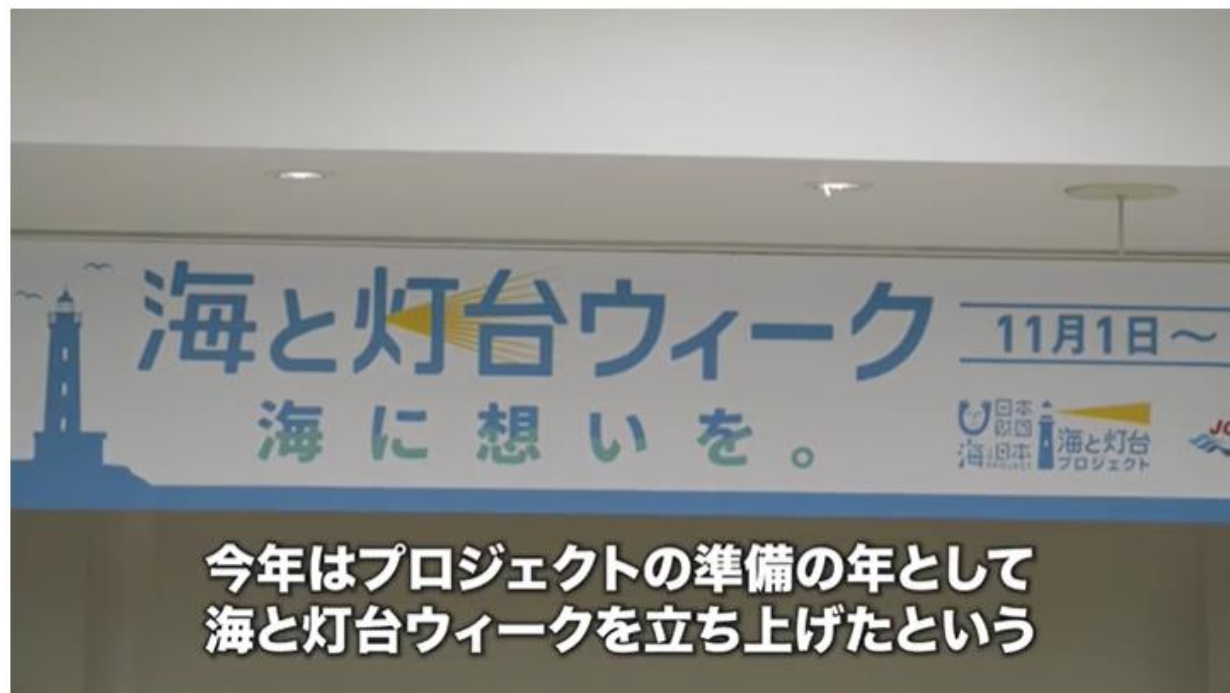
地域

▶ 速報 橋本聖子新会長 記者団にコメント 7分前

Go To 灯台！～全国各地で灯台の一般公開などを行う「海と灯台ウィーク」～

2020/10/31(土) 12:00 配信 1

SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

11月1日は「灯台記念日」。

その記念日にちなみ、日本財団と海上保安庁は、11月1日から8日までを「海と灯台ウイ

No.	19	エリア	全国	配信日	2020.11.14
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/0e3379e18a871ab83ea019a43b3037f01758f05b		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

全国を巡る2人の海の繋ぎ手～東西から日本各地の海の魅力や課題を発信していく熱源キャラバン～

2020/11/14(土) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」


今、熱源キャラバンカーが日本全国をまわっています。これは、海の繋ぎ手2人が9月にスタートして、東西から全国の“熱源”を巡り、海の魅力や課題を発信する「熱源キャラバン」というプロジェクト。「海に対して熱い思いを持っていたり、社会を動かすムーブメントの源になる方達を私達は“熱源”と呼んでいる」と話すのは、東ルートを担当している

No.	20	エリア	全国	配信日	2020.11.21
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/7d40a4dc626fd636490fdb58c25207e14e1cc32f		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライフ](#)[地域](#)

コロナ禍と全国の水辺の事故～減少した救助出動件数の裏には海の安全を守る人達の活動が！？～

2020/11/21(土) 12:00 配信   1



日本財団「海と日本プロジェクト」

2020年は新型コロナウイルスの影響で、海水浴場が開設されなかったり、ライフセーバーが常駐しない海などがありました。そのため、水辺の事故が増える恐れがありました。そんな中、水辺の事故を防ぐために必要なことや実施している取り組みなどを取り上げる最終回は、「全国で行われた水辺の事故を防止するための取り組み」です。

No.	21	エリア	全国	配信日	2020.12.05
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2df9ea3ab7c7d543cf71faae087ac12bc79bfa52		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

👉パイパイジャンボで全額戻ってくるチャンス

キーワードを入力

| Q

トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

コロナ禍でも高校生が熱闘！～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定！スポGOMI甲子園～

2020/12/5(土) 12:00 配信



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



どのごみを重視して拾うかという
作戦を練るなど 知力も必要になります

日本財団「海と日本プロジェクト」

「海と日本プロジェクト スポGOMI甲子園2020」の決勝が、東京・墨田区にて11月22日に開催されました。スポGOMIとは、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた日本発祥の競技で、スポGOMI甲子園は、高校生による全国大会。この日は、地区大会を勝ち抜いた23チームが出場。新型コロナウイルスの影響から12組が東京に集結、11組はオンラ

No.	22	エリア	全国	配信日	2020.12.05
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ad74ff554a36abfeb befd313a90943b07608fedc		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

👉 ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

▶ 速報 橋本新会長と小池都知事が面会 4分前

全国の熱源を2か月巡りゴール～2021年の熱源サミットに向け新たな展開「熱源プロジェクト」～

2020/12/5(土) 12:00 配信



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本全国をまわっていた「熱源キャラバン」の到着式が、島根県の出雲ドームで2020年11月20日に行われました。熱源キャラバンとは、海への「熱い」想いをもち、社会を変



No.	23	エリア	全国	配信日	2020.12.26
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/820aecc94aa1cdd8b40295d436f07b936c82adb9		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

 **速報** 橋本新会長と小池都知事が面会 6分前

水族館からのオンライン授業～オンライン謎解き「海なぞ水族館」に先駆けて行われた海洋問題の授業～

2020/12/26(土) 12:00 配信   0



日本財団「海と日本プロジェクト」

「ジンベエザメの生態と海洋プラスチック問題に関する特別オンライン授業」が、東京の世田谷区立用賀中学校で、2020年12月17日に行われました。この遠隔授業は、日本財団

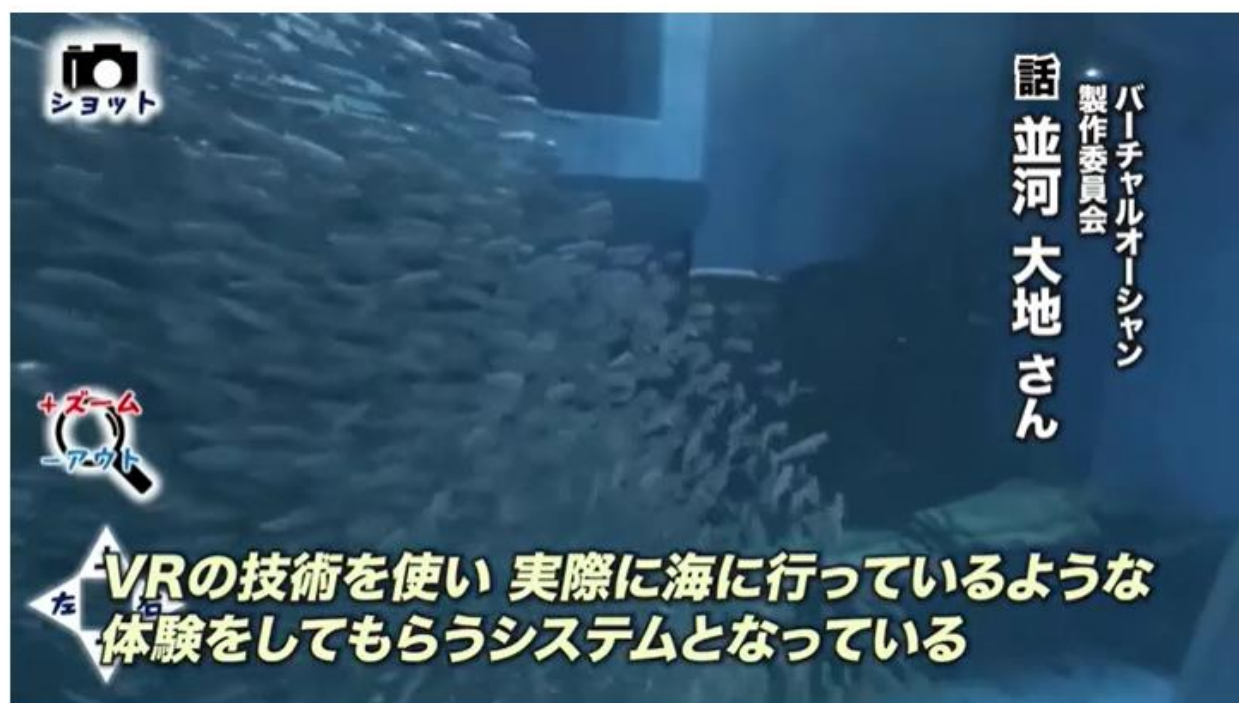
No.	24	エリア	全国	配信日	2020.12.29
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/b547bfa5eacfe00cb80e6a5ffc51bbc6799324c4		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 📄 お買い物がお得になるクーポンがたくさん


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

院内学級の生徒が海中体験！～Virtual Ocean Projectが実施したオンライン授業「水中ドローン×VR」～

2020/12/29(火) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

Virtual Ocean Projectが、愛知県立大府特別支援学校の生徒たちへ向けて、オンライン授業を2020年12月25日に行いました。Virtual Ocean Projectとは、日本財団が行っている「海と日本プロジェクト」の一環で、水中ドローンとVR技術を組み合わせ、新しい海洋VRコンテンツを発信しているプロジェクトです。

No.	25	エリア	全国	配信日	2021.01.22
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/0609339b0fff89a60a8046f928987e9e411aa8f9		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 📦 お買い物がお得になるクーポンがたくさん

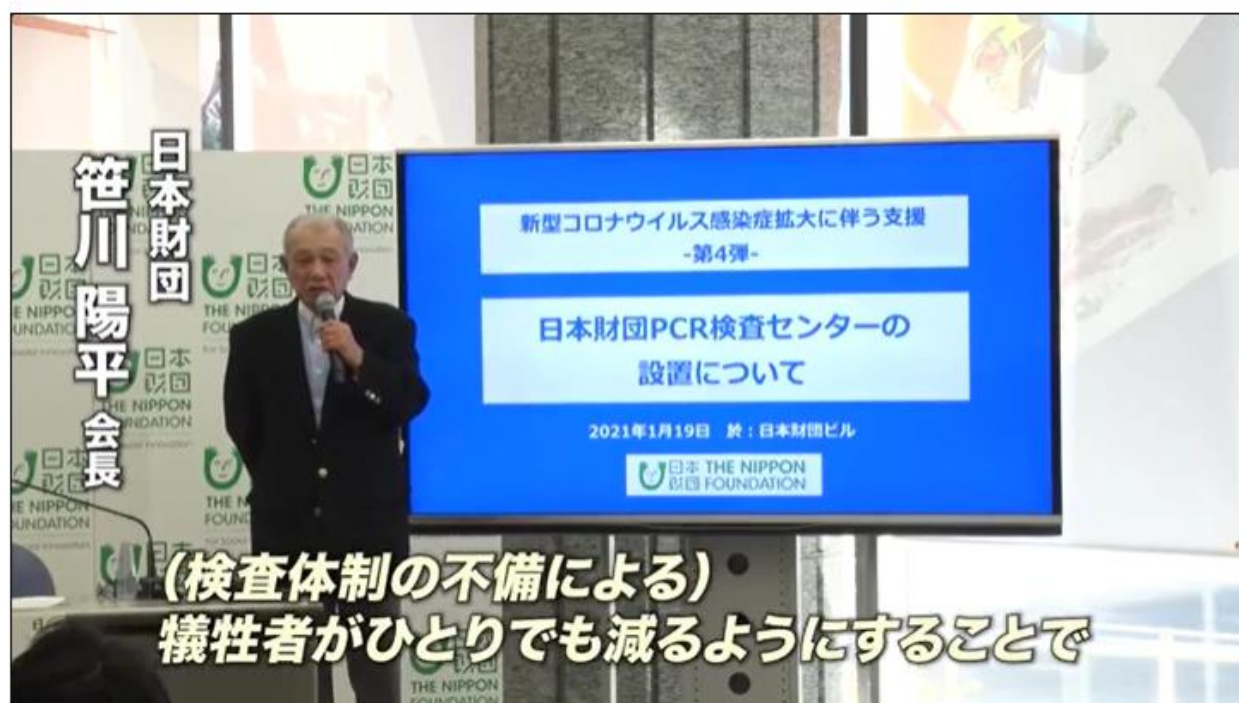
キーワードを入力 | 🔍

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 **ライフ** 地域

介護スタッフに無料PCR検査～約10万人が毎週1回を目安に日本財団が実施へ～

1/22(金) 12:00 配信 0  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団は、新型コロナウイルス対策支援の第4弾として、東京都内の介護・福祉施設のスタッフなどを対象に、無料でPCR検査を提供すると、2021年1月19日に発表した。

死亡者の80%以上が高齢者という現状や高齢者福祉施設でのクラスターが多数発生して

No.	26	エリア	長崎県	配信日	2021.02.07
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/228dd3aa8a319a13977fccf56f0539bb238dcbb1		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

海のクイズ王で学校のヒーローに～クイズ王・古川プロデュース 「子ども海のクイズ王プロジェクト」～

2/7(日) 12:00 配信   2



全国8県の学校で行われたクイズ大会です

日本財団「海と日本プロジェクトinながさき」



全国8県の小学校で「子ども海のクイズ王プロジェクト」が、2020年10月から2021年1月まで行われました。このプロジェクトは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施されたもので、各学校で5・6年生が参加するクイズ大会を開催。クイズを通して、海が抱えている問題や日本の豊かな海を知ってもらおうという授業です。

No.	27	エリア	石川県	配信日	2021.02.13
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/19a5e48f6e514d6fdb1ba8b8547b629e1b644c09		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

大麦ストロー製品化から1年～アサヒビールと協力、高校生が賛同と広がるプラごみ削減～

2/13(土) 12:00 配信  2 



2020年は 自然にやさしい商品に与えられる「ソーシャルプロダクツ・アワード」で入賞しました

日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」

石川県にある会社「ロータスコンセプト」の代表・蒲田ちかさんによって製品化されたのが、「大麦ストロー」です。脱プラスチックを目的に、2019年5月から本格生産を開始した大麦ストローは、金沢市のホテルで使用されるなど広がりを見せています。

No.	28	エリア	三重県	配信日	2021.02.14
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/50e7ebb921215550e9a0304c2af492986afe09f9		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 23日までペイペイモールファッション祭開催

キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

学生が海の生き物ロボで授業～地元・三重県のスズキヤイルカをリアルに再現したロボットで環境教育活動～

2/14(日) 12:00 配信 0  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



幼稚園などで海の生き物ロボットを使い
環境教育活動を行っています

日本財団「海と日本プロジェクトin三重県」


三重県の鈴鹿中学校の生徒たちが、2014年に起ち上げたのが海洋環境保全団体「Save the Ocean Men」、通称「SOM」です。代表の落合真弘さんを中心に約50人の有志が、海洋ごみ問題に取り組んでいます。定期的に地元の海岸を清掃しているほか、海の生き物ロボットを使った研究を実施。研究内容は、海洋ごみに苦しんでいる海の生き物に似せた

No.	29	エリア	兵庫県	配信日	2021.02.20
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1d18de8793210831d7ba468995f52f3771d24822		

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン  [競りヶ原の戦い] お得キャンペーン開催中


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

日本最古級の灯台に脚光！～「恋する灯台」認定で盛り上がる淡路島の江崎灯台～

2/20(土) 12:00 配信  0



**建設当時の姿のまま現役を続ける灯台としては
日本で2番目に古い貴重な灯台です**

日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」

兵庫県の淡路島にある江崎灯台は、明治4年に建設された石造りの洋式灯台です。建設当時の姿のまま現役を続ける灯台としては、日本で2番目に古いという貴重な灯台ですが、歴史的な価値があるにも関わらず、これまではほとんど人が寄ることもなく、整備も不十分で注目されていませんでした。

No.	30	エリア	福岡県	配信日	2021.02.21
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/af86ec5709d367af173c5d150d3c85d426374587		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス

キーワードを入力 | Q

トップ | 速報 | ライブ | 個人 | オリジナル | みんなの意見 | ランキング
 主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

新世代・海女漁師の取り組み～新たなアイデアで海女発祥の地・鐘崎を盛り上げる若き海女漁師～

2/21(日) 12:00 配信  5 

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクトinふくおか」

海女発祥の地と言われている福岡県・鐘崎。鐘崎のあまちゃんの中には、海女漁師としてだけでなく、個性を生かした活動を行っている人もいます。



そのひとりが、愛知県出身の林由佳理さんです。激減する海女漁師の存続のため、2018

No.	31	エリア	沖縄県	配信日	2021.02.27
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/754846b2bf31525d124bd02baa68fb62d821d447		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

ごみでSNS映え&マッチング～沖縄県で若者が進める新しいごみ拾いの仕組み～

2/27(土) 12:00 配信   0



プロジェクトマナティHP

新しい地域の学び、
 地域を、いつでも
 ワリケンアップできる
 マナティ



知らない地域、知らない地域の人とも出会う。
 マナティをきっかけに、人と地域も繋がります。



プロジェクトマナティとは
 ごみ拾いのマッチングサービス

ワンコイン
 で繋がる

地域のパートナーさんから
 マナティトークを購入。
 ペイペイのごみを撮影して
 マナティトークを
 獲得して使えます！

日本財団「海と日本プロジェクトin沖縄県」

ポイ捨てごみをSNSに投稿しているのが、沖縄県で活動しているビーチクリーン団体「Litterati Japan (リテラティ ジャパン)」です。「Litterati」とは、ポイ捨てごみを意味する「Litter」に、芸術の「art」を掛け合わせた造語。その活動は、拾ったごみをオシャレに撮影してSNSに投稿し、ごみ拾いを楽しみながら写真を世界中に発信するこ

No.	32	エリア	青森県	配信日	2021.02.28
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/5a62660ad94a8eef7aea8a4ce97e35af4eda2b73		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス

キーワードを入力 | 

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

陸奥湾のアマモを守る経営者～日本一減少しているアマモ場の再生に奮闘する志田崇～

2/28(日) 12:00 配信   1

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクトin青森県」

海の環境を影で支えているのが、海草「アマモ」です。群生するアマモ場は「海のゆりかご」と呼ばれ、魚たちの生息・産卵場所になっています。さらに、二酸化炭素を吸って酸素を供給、窒素やリンを吸収して海をキレイにするという役割も果たしています。

No.	33	エリア	山形県	配信日	2021.03.06
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/f6c9370c1342c72c77043af210e4e020b3c602b6		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 対象ストアで買うと3/27~さらにお得に



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

バリアフリーの海への第一歩～山形県の「マリンパークねずがせき」に設置された常設スロープ～

3/6(土) 12:00 配信 0



そのひとつが「バリアフリービーチ大作戦」

日本財団「海と日本プロジェクトin山形」



山形県の海水浴場「マリンパークねずがせき」では、以前から障がいを持つ人と持たない人が一緒に楽しめる海づくりを行ってきました。そのひとつが、「バリアフリービーチ大作戦」です。2017年から行われているこのイベントは、海水浴を諦めていた子ども達に、マリンアクティビティを体験してもらいながら1日だけの海を楽しんでもらうという

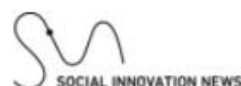
No.	34	エリア	滋賀県	配信日	2021.03.07
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c1d5b50c4f281bfc673ba4a6a6989c0cb3a8b5b2		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  ペイペイジャンボで全額戻ってくるチャンス


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

湖上スポーツの拠点を作りたい～パラローイング団体の代表が琵琶湖で大会を初開催～

3/7(日) 12:00 配信   0



日本財団「海と日本プロジェクトin滋賀県」

パラリンピックの種目にもなっているボート競技「パラローイング」。そのパラローイングにおいて、琵琶湖を拠点に選手育成や普及活動を行っているのが、小原隆史さんです。

「初めて生まれた子どもに障がいがあるとわかったが、障がいのある子どもがスポーツをする機会が本当になかった」と話す小原さんは、障がいのある・なしに関わらず、スポー

No.	35	エリア	新潟県	配信日	2021.03.13
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/29b72415e5f48ff1454060b2ad7226660e78fc5e		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 対象ストアで買うと3/27~さらにお得に

キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

若手漁師の新たな活動は先生～海と日本プロジェクトをキッカケに芽生えた「海の魅力を伝えたい」～

3/13(土) 12:00 配信 0  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

年々、漁業人口が減少している新潟県。その一方で、奮闘している若手漁師もいます。それが、群馬県出身の黛隼樹さんです。小さい頃に親と川釣りをしていたことから、魚が好きになり、その後、魚に関わる仕事に就きたいと思い、群馬県から近い新潟県糸魚川市にある海洋高校に進学しました。そして、海への憧れと、川とは違う海の生態系に興味を持

No.	36	エリア	長野県	配信日	2021.03.14
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1f7422c5c58f2fed025af6d6952bde88ee01bc0e		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 落札システム利用料が実質半額 今すぐ確認

[トップ](#)[速報](#)[ライブ](#)[個人](#)[オリジナル](#)[みんなの意見](#)[ランキング](#)[主要](#)[国内](#)[国際](#)[経済](#)[エンタメ](#)[スポーツ](#)[IT](#)[科学](#)[ライフ](#)[地域](#)

学生が「清走中」で海ごみ対策～海なし県・長野の高校生が取り組む海洋ごみ問題～

3/14(日) 12:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

海なし県・長野で、海洋ごみ問題に取り組んでいるのが、長野県長野高等学校に通う3年生の北村優斗さんです。

幼い頃は東京暮らしだった北村さんは、高校2年生の時、大好きな場所だった神奈川県・

No.	37	エリア	神奈川県	配信日	2021.03.20
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/cd6b74fea88d1fc477dc179a0b16f0a6d6cbb60f		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 対象ストアで買うと3/27~さらにお得に


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

海への想いが繋げたビールとピザ〜「豊かな海を残したい」との想いが合致した神奈川県の2つの飲食店〜

3/20(土) 12:00 配信



それが「驛(うまや)の食卓」の「海とつながるビール」です

日本財団「海と日本プロジェクトinかながわ」

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」では、推進パートナーと共に海をPRしていく試みが全国で行われていて、9,000以上の企業や団体が参加しています（2020年12月時点）。2020年に推進パートナーとなった神奈川県の株式会社 First Dropが運営する飲食店「湘南バルはなたれ The Fish and Oysters」では、「神奈川・湘南の釜揚げしら

No.	38	エリア	鳥取県	配信日	2021.03.20
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/7036dd0fc1b2d5c2be4e8022452d0d0c90bbccce		

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 対象ストアで買うと3/27~さらにお得に


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

鳥取発！広がる「すなばスポーツ」～すなばスポーツで鳥取県を日本一ワクワクする「すなば県」に～

3/20(土) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクトinとっとり」

鳥取県の砂丘や海岸といった「すなば」で活動している団体が、「すなばスポーツ」です。ビーチサッカー、ビーチテニス、ビーチヨガ、鳥取県の伝統的な踊り「しゃんしゃん傘踊り」など、多くの体験型のアクティビティを手掛けています。代表の岸本雄司さんは「砂の上でスポーツをしていくことで、鳥取を盛り上げていきたい、発信していきたい思

No.	39	エリア	香川県	配信日	2021.03.21
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/0af6e3c841f2c16b58af986371166ef1064de77e		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 対象ストアで買うと3/27~さらにお得に


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライフ](#)
[地域](#)

児童が選んだ学習テーマは海ごみ～ビーチクリーンにも参加して学んだ香川県の高松小学校～

3/21(日) 12:00 配信 0



香川大学教育学部附属高松小学校で行われたのが「海洋ごみ」について考える活動です

日本財団「海と日本プロジェクトinかがわ」

香川大学教育学部附属高松小学校では、1年生から6年生までのグループをひとつのクラスにして活動する「縦割り創造活動」が行われています。2020年度の活動のテーマのひとつとして取り上げたのが、「海洋ごみ」です。山田旅生教諭は「今回のプロジェクトは子ども達の発言から始まった。子ども達が社会に役立つものとして、海のごみの問題を取

No.	40	エリア	熊本県	配信日	2021.03.21
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/680f55740027da71215c1e983817c84cc2747a73		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 対象ストアで買うと3/27～さらにお得に

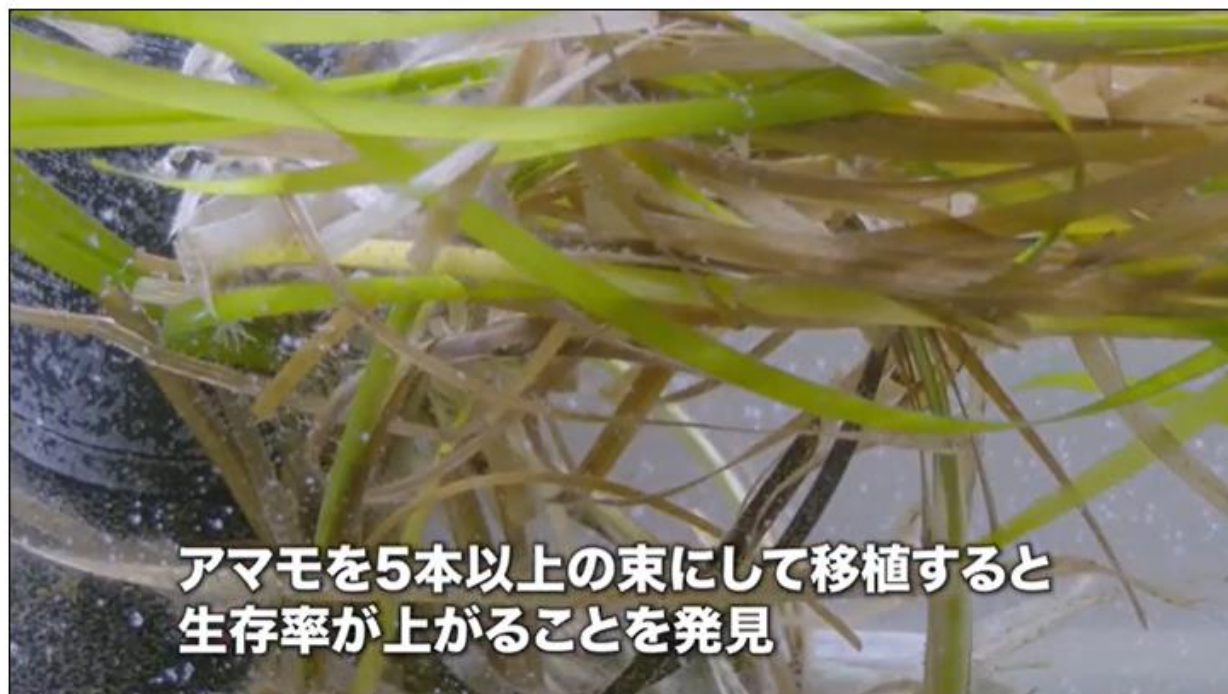
キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

18年以上続く芦北高校の挑戦～豊かな海にするため熊本県・芦北湾のアマモ場を再生へ～

3/21(日) 12:00 配信 1  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクトinくまもと」

熊本県の芦北高校の生徒たちは、芦北湾での「アマモ場づくり」を2002年から行っています。海草「アマモ」が群生するアマモ場は、海の生き物たちの生息場所となる重要な存在です。かつての芦北湾には広大なアマモ場があり、環境省の自然環境保全基礎調査によると、1978年には13haあったそうです。しかし、山からの土砂の流入や海辺の開発など

No.	41	エリア	石川県	配信日	2021.03.30
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/54769c58a2912ab15a123d2eca14e556511a1656		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 毎日お得、本日の値下げ商品はこちら



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

石川県で広がる「海の学び」～海を未来へと引き継ぐ者たち①「海と日本プロジェクトinいしかわ」と「能登里海教育研究所の浦田 慎」～

3/30(火) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクトinいしかわ」

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクト in いしかわ」（石川県）では、海に携わる人への取材、奥能登の海と恵み

No.	42	エリア	北海道	配信日	2021.03.30
カテゴリー	ライブ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/fc89111903a5e0a9dc1013643ece3b34afe6c44f		

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



ZOZOTOWNのお買い物で+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

子ども達に北海道の海の魅力を～海を未来へと引き継ぐ者たち② 「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」と「オホーツクタワー・村井克詞」～

3/30(火) 12:00 配信



**紋別市にあるオホーツクタワーは
世界初の氷海(ひょうかい)海中展望塔**

日本財団「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。人と海をガッチャンコして、海と共生するムーブメントを起こすことを目的に活動している「海と日

No.	43	エリア	兵庫県	配信日	2021.03.30
カテゴリー	ライフ	URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ef508eac97bbb20d1516cd19e4243a0c336182f6		

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん

トップ | 速報 | ライブ | 個人 | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

兵庫 キレイで豊かな海づくりを～海を未来へと引き継ぐ者たち③ 「海と日本プロジェクトinひょうご」と「うみぞら映画祭の大継康高」～

3/30(火) 12:00 配信  0



日本財団「海と日本プロジェクトinひょうご」

日本財団が推進している「海と日本プロジェクト」は、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために、2016年から全国各地で様々な活動を行っています。「海と日本プロジェクト in ひょうご」（兵庫県）では、活動の1つとして「豊かな海」について学

4 素材提供リスト

No.	提供素材	提供先一覧		URL
		放送県名	放送局名	
1	複数素材 ※ 1	全国	BSテレビ東京	
2	コロナ禍でも高校生が熱闘！ ～ごみ拾いの高校生チャンピオン が決定！スポGOMI甲子園～	全国	フジテレビ ※ 2	https://social-innovation-news.jp/?p=1166
		新潟県	BSN新潟放送	
		石川県	石川テレビ放送	
		長野県	長野放送	
		佐賀県	サガテレビ	
3	コロナ対策で50億円の支援 ～日本財団が“第2波”と“複合 災害”に備えて救命救急医療を 支援～	滋賀県	びわ湖放送	https://social-innovation-news.jp/?p=1104
		秋田県	秋田テレビ	
		石川県	石川テレビ放送	
		長野県	長野放送	
4	小泉環境相もコスプレイヤーとご み拾い ～日本財団と環境省による「秋 の海ごみゼロウィーク」開始～	静岡県	テレビ静岡	https://social-innovation-news.jp/?p=1128
		全国	エリア44局	
		秋田県	秋田テレビ	
		長野県	長野放送	
		島根県	TSKさんいん中央テレビ	
5	Jチームが海ごみで最優秀賞 ～日本財団と環境省が主催す る「海ごみゼロアワード」～	香川県	西日本放送	https://social-innovation-news.jp/?p=1134
		全国	エリア44局	
		秋田県	秋田テレビ	
		東京都	テレビ東京ダイレクト	
6	中高生がオンラインプレゼン ～マリンチャレンジプログラム 2019全国大会～	石川県	石川テレビ放送	https://social-innovation-news.jp/?p=1098
		熊本県	熊本朝日放送	
7	育てたヒラメを最後どうする？ ～小学校で海の魚を養殖する 「陸養プロジェクト」～	東京都	TOKYO MX	https://social-innovation-news.jp/?p=1142

※ 1 「羽田土曜会」用に複数の素材を提供

※ 2 赤字はエリア局以外への素材提供

※素材を提供したが、使用が確認されなかった4件

No.	提供素材	提供先一覧		URL
		放送県名	放送局名	
8	コロナ禍こそ水辺のそなえを～第1回：ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方～	不明	不明	https://social-innovation-news.jp/?p=1112
9	海の安全を守るボツンと海の家～片瀬東浜海岸に建設された“釘のない海の家”～	不明	不明	https://social-innovation-news.jp/?p=1124
10	コロナ禍と全国の水辺の事故～減少した救助出動件数の裏には海の安全を守る人達の活動が！？～	不明	不明	https://social-innovation-news.jp/?p=1162
11	危険生物に離岸流。夏本番に向けて知っておくべき“海のそなえ”	不明	不明	https://social-innovation-news.jp/?p=959